

# 日本語 OpenVMS

---

## フォント管理ユーティリティ 利用者の手引き

AA-PU8SG-TE.2

2009年11月

本書は、日本語エディタ等のプログラムが使用する漢字フォントをサポートするユーティリティ群である、フォント管理ユーティリティについて説明します。

改訂 / 更新情報:

日本語 OpenVMS V7.2 『フォント管理ユーティリティ 利用者の手引き』の改訂版です。

ソフトウェア・バージョン:

日本語 OpenVMS Integrity

日本語 OpenVMS Alpha V7.3

日本語 OpenVMS VAX V7.3

日本ヒューレット・パッカード株式会社

---

© 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、弊社は一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

日本ヒューレット・パカードは、弊社また弊社の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合、その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

Adobe、Adobe Illustrator、POSTSCRIPT は米国 Adobe Systems 社の商標です。

BITSTREAM は米国 Bitstream 社の商標です。

COMPAQ は米国 COMPAQ Computer 社の商標です。

Microsoft、MS および MS-DOS は米国 Microsoft 社の商標です。

Motif、OSF、OSF/1、OSF/Motif および Open Software Foundation は米国 Open Software Foundation 社の商標です。

その他のすべての商標および登録商標は、それぞれの所有者が保有しています。

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1 を用いて作成しています。

---

# 目次

まえがき	vii
<b>1 概要</b>	
1.1 フォント管理ユーティリティ概要	1-1
1.2 フォント管理ユーティリティの機能	1-1
1.3 フォント・データベース	1-3
1.4 日本語 OpenVMS オペレーティング・システムのユーザ定義文字	1-4
1.5 環境	1-4
1.5.1 ハードウェア	1-4
1.5.2 OpenVMS Cluster 環境での操作	1-5
<b>2 日本語ターミナル・ドライバとフォント・ハンドラ</b>	
2.1 日本語ターミナル・ドライバ	2-1
2.1.1 日本語ターミナル・ドライバの処理	2-1
2.1.2 標準ターミナル・ドライバとの切り換え	2-2
2.1.2.1 VAX 版の場合	2-2
2.1.2.2 Alpha 版および Integrity 版の場合	2-3
2.2 オンデマンド・ローディング	2-3
2.2.1 概要	2-3
2.2.2 ソフトウェア・オンデマンド・ローディング	2-3
2.2.3 ハードウェア・オンデマンド・ローディング	2-4
2.2.4 オンデマンド・ローディングの使用方法	2-6
2.2.5 注意および制限事項	2-6
2.3 フォント・ハンドラ	2-6
<b>3 漢字プリント・シンビオント</b>	
3.1 概要	3-1
3.2 漢字プリント・シンビオントが行う処理	3-1
3.3 プリンタ・ハードウェア・タイプ論理名	3-1
3.4 漢字プリント・シンビオントの種類	3-2
3.5 サポートする漢字プリンタ	3-2
3.6 プリント・キューの設定方法	3-3
3.7 注意および制限事項	3-3

4	Character Manager (CMGR) ユーティリティ	
4.1	概要	4-1
4.2	起動方法	4-1
4.3	ファイル形式	4-1
4.3.1	システム・キャラクタ・マスタ・インデックス・ファイル	4-1
4.3.2	カントリ・インフォメーション・ファイル	4-2
4.3.3	キャラクタ・セット・インフォメーション・ファイル	4-2
4.3.4	システム・キャラクタ・インデックス・ファイル	4-3
4.3.5	システム・フォント・データベース	4-3
4.3.6	プリロード・ファイル	4-3
4.4	CMGR コマンド	4-4
	CONVERT DATABASE (VAX のみ)	4-5
	CONVERT FONT_FILE	4-8
	CONVERT FONT_SIZE	4-10
	COPY	4-12
	EDIT	4-16
	EXIT	4-23
	EXTRACT CODE	4-24
	EXTRACT REFERENCE	4-27
	HELP	4-30
	REMOVE	4-31
	SET DATABASE	4-34
	SHOW BITMAP	4-36
	SHOW CHARACTER_SET	4-43
	SHOW DATABASE	4-44
	SHOW TABLE	4-46
	SHOW VERSION	4-51
	UPDATE	4-52
4.5	JIS X 0208-1983 第2水準漢字文字セット	4-55
4.6	複数のデータベース	4-55
4.7	制限事項	4-55
5	KANJIGEN ユーティリティ	
5.1	概要	5-1
5.2	起動方法	5-1
5.3	KANJIGEN コマンド	5-1
	EXIT	5-3
	HELP	5-4
	SET	5-5
	SHOW	5-12

## 6 フォント管理ユーティリティ・メッセージ

6.1	メッセージの表示	6-1
6.2	メッセージの形式	6-1
6.2.1	重大度レベル	6-1
6.2.2	追加メッセージ	6-2
6.3	KANJIGEN のメッセージ	6-2
6.4	Character Manager (CMGR) のメッセージ	6-4
6.5	フォント・ハンドラのメッセージ	6-19

## 索引

### 図

1-1	フォント・データベース	1-3
2-1	ソフトウェア・オンデマンド・ローディングの流れ	2-4
2-2	ハードウェア・オンデマンド・ローディングの流れ	2-5
4-1	フォント・システム概略図	4-2
4-2	EDIT コマンドの編集スクリーン	4-18
4-3	例 1 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン	4-39
4-4	例 2 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン — (24 × 24)	4-40
4-5	例 2 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン — (32 × 32)	4-41
4-6	例 2 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン — (40 × 40)	4-42
4-7	例 1 のコマンドで作成された文字コード・テーブル (その 1)	4-49
4-8	例 1 のコマンドで作成された文字コード・テーブル (その 2)	4-49
4-9	例 2 のコマンドによって作成された文字コード・テーブル	4-50

### 表

1-1	漢字ターミナルおよびプリンタでのユーザ定義文字のサポート	1-4
4-1	Character Manager (CMGR) のコマンドの一覧	4-4
4-2	EDIT コマンドでのアプリケーション・キーパッドの定義	4-19
4-3	EDIT コマンドの編集キーパッド・キーとファンクション・キーパッド・キーのキー定義	4-21
4-4	EDIT コマンドのメイン・キーパッド・キーのキー定義	4-21
5-1	KANJIGEN コマンド一覧	5-1
5-2	/DEVICE_TYPE 修飾子によるターミナル属性の設定	5-9
6-1	メッセージ・フィールド	6-1
6-2	メッセージ重大度レベル	6-2

---

# まえがき

## 本書の目的

本書は、フォント管理ユーティリティの機能およびその使用方法について説明します。

## 対象読者

本書は、システム管理者を含むすべての日本語 OpenVMS オペレーティング・システム利用者を対象としています。

## 本書の構成

本書は、6つの章から構成されています。

第1章	フォント・システムの概要について説明します。
第2章	日本語ターミナル・ドライバとフォント・ハンドラの機能について説明します。
第3章	漢字プリント・シンピオントと標準プリント・シンピオントの違いについて説明します。
第4章	Character Manager (CMGR) ユーティリティについて説明します。
第5章	KANJIGEN ユーティリティの使用方法について説明します。
第6章	フォント管理ユーティリティのシステム・メッセージについて説明します。

## 関連資料

- 『OpenVMS システム管理者マニュアル』
- 『OpenVMS ユーザーズ・マニュアル』
- 『OpenVMS DCL デクシヨナリ』
- 『日本語 OpenVMS 概説書』
- 『漢字コード表』

## 本書で使用する表記法

本書では次の表記法を使用します。

表記法	意味
Ctrl/x	Ctrl/xという表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
PF1 x	PF1 xという表記は、PF1 に定義されたキーを押してから、別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Return</span>	例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。
...	例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 文中のオプションの引数が省略されている。</li><li>• 前出の 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。</li><li>• パラメータや値などの情報をさらに入力できる。</li></ul>
.	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。
( )	コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。
[ ]	コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか 1 つを選択しても、あるいは 1 つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMS ファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。
[   ]	コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを 1 つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。
{ }	コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか 1 のオプションを指定しなければなりません。
太字	太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。
<i>italic text</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i> )、コマンド・ライン (たとえば <i>/PRODUCER=name</i> )、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i> ) などの変数を示す場合にも使用されます。
UPPERCASE TEXT	英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。
Monospace type	モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。 C プログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。
-	コマンド形式の記述の最後、コマンド・ライン、コード・ラインにおいて、ハイフンは、要求に対する引数がその後の行に続くことを示します。

表記法	意味
数字	特に明記しない限り，本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数，8 進数，16 進数) は，その旨を明記してあります。

## 用語について

- システム・フォント・データベース

ユーザ定義文字の文字パターンが登録されているデータ・ファイルの総称です。システム・フォント・データベースに登録されている文字パターンは，システム全体で使用されます。

- フォント ROM と フォント RAM

ディスプレイ・ターミナルおよびプリンタに搭載されているメモリ・チップです。

フォント ROM は一部の文字コードの文字パターンを格納しており，これらの文字パターンは，ディスプレイ/プリンタのスイッチを切断した場合でも削除されません。

フォント RAM は，ロード可能シーケンスをロードすることにより，ユーザ定義文字の文字パターンを格納することができるメモリです。

- フォント・ファイルとプリロード・ファイル

作成した文字のビットマップ・パターンを格納したユーザのデータ・ファイル，およびパターンのロード可能シーケンスを格納したファイルを，それぞれ示します。プリロード・ファイルに対して TYPE/PRINT DCL コマンドを使用すれば，ディスプレイ・ターミナル/プリンタのフォント RAM に文字パターンをロードし，格納することができます。



この章では、日本語 OpenVMS のフォント・システムとして使用されているフォント管理ユーティリティについて説明します。

## 1.1 フォント管理ユーティリティ概要

フォント管理ユーティリティとは、日本語エディタ (DEC XTPU など) のようなプログラムが使用する漢字フォントをサポートするユーティリティ群です。

- KANJIGEN ユーティリティ  
漢字ターミナルの属性を設定する (第 5 章を参照)
- Character Manager (CMGR) ユーティリティ  
システム・フォント・データベースの管理およびプリローディング用ファイルの作成 (第 4 章を参照)

日本語 OpenVMS のフォント・システムは、このフォント管理ユーティリティの他にユーザから直接には見えないところで動く日本語ターミナル・ドライバ、フォント・ハンドラおよび漢字プリント・シンビオントも、漢字ターミナルに漢字を出力する際に使用しています。

- 日本語ターミナル・ドライバとフォント・ハンドラ  
文字パターン出力の判定と文字パターンの出力 (第 2 章を参照)
- 漢字プリント・シンビオント  
プリンタにユーザ定義文字を出力する (第 3 章を参照)

## 1.2 フォント管理ユーティリティの機能

フォント管理ユーティリティの機能の概略を以下に記します。

### 1. 漢字ターミナルの属性の設定

KANJIGEN ユーティリティを使用して、漢字ターミナルの属性を設定します。DCL コマンドの SET TERMINAL に相当する機能です。

- 日本語エディタ、日本語電子メールなどを使う場合は、あらかじめ KANJIGEN で漢字ターミナルの属性を漢字出力モードに設定してください。

- JIS X 0208 第2水準漢字およびユーザ定義文字をオンデマンド・ローディング機能を用いて表示する場合は、KANJIGENで漢字ターミナルの属性をオンデマンド・ローディング可能に設定してください。

## 2. ユーザ定義文字の作成

JIS X 0208 第1水準、第2水準相当の漢字フォントは、漢字ターミナルのフォントROMまたはシステムのフォント・データベースに準備されています。これ以外の文字パターンが必要な場合は、CMGRユーティリティを使用することによってユーザ独自にフォントをデザインして使用することができます。

作成した文字パターンは、システムのフォント・データベースに登録して全ユーザが共通に使用することも、各ユーザが個別に独自の文字パターンとして使うこともできます。

## 3. プリローディング

漢字ターミナルやプリンタで、その装置のフォントROMにない漢字を使用する場合、文字パターンをあらかじめフォントRAM上に保存して使用することができます。

この機能を使用するには、ロード可能形式で文字パターンを持つプリロード・ファイルと呼ばれるファイルを、DCLコマンドのTYPEで漢字ターミナルに出力するか、またはDCLコマンドのPRINTでプリンタに出力してください。

## 4. システム・フォント・データベース管理

CMGRユーティリティを使用して、システム・フォント・データベース上に作成したユーザ定義文字を登録したり、または削除することができます。

## 5. オンデマンド・ローディング

漢字ターミナルやプリンタで、その装置のフォントROMにない漢字を使用する場合、オンデマンド・ローディングの機能を使用して、自動的に文字パターンを漢字ターミナルに送ることができます。

オンデマンド・ローディング機能を有効にした場合、日本語ターミナル・ドライバは、必要に応じてフォント・ハンドラと呼ばれるプロセスを呼び出して、システム・フォント・データベース内の文字パターンを漢字ターミナルに送ります。

この機能はユーザからは見えないところで行われますので、ユーザはJIS X 0208 第2水準漢字、ユーザ定義文字などを自由に使うことができます。

## 6. プリンタでの漢字印字

漢字プリント・シンビオントを使用すると、プリンタにユーザ定義文字を出力することができます。

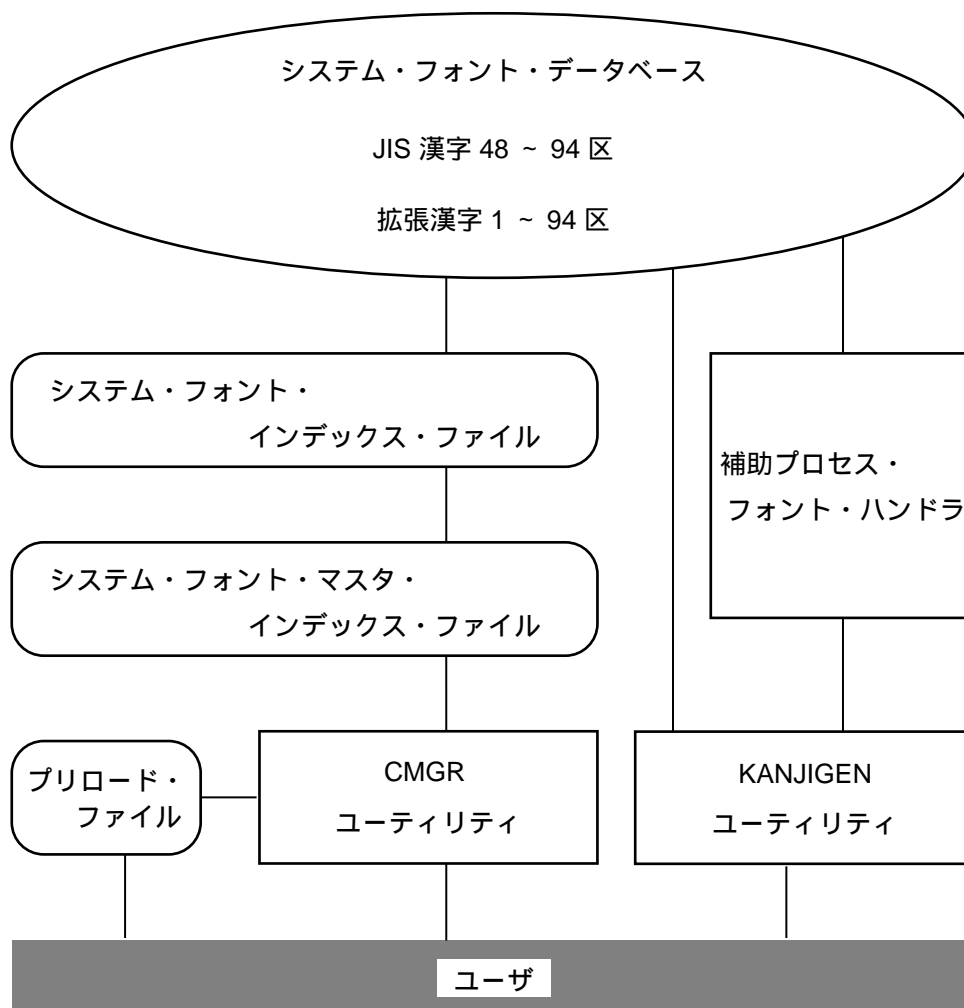
### 1.3 フォント・データベース

システム全体で使用される文字パターンを格納するためのファイルで、以下の漢字を管理します。

- JIS X0208 漢字文字セットの 48 ~ 94 区 漢字ターミナル用
- DEC 拡張漢字セット 1 ~ 94 区 漢字ターミナルとプリンタ用

JIS X0208 漢字文字セット 1 ~ 47 区については漢字ターミナル側で管理します。フォント・データベース内にこの情報はありません (図 1-1 参照)。

図 1-1 フォント・データベース



## 1.4 日本語 OpenVMS オペレーティング・システムのユーザ定義文字

日本語 OpenVMS では、DEC 漢字コードセットおよび Super DEC 漢字コードセットの 2 つがサポートされます。

これらの漢字コードセットでは、一部の文字コードについてはユーザが文字パターンを作成し、定義することができます。(ユーザ定義文字の作成や管理には、Character Manager (CMGR) ユーティリティを使用します。) これらの文字をユーザ定義文字 (UDC) と呼びます。ユーザはユーザ定義文字を使用することにより、日本語 OpenVMS の標準文字セットではサポートされない一部の漢字文字を使用することができます。漢字コードセットの詳細は、『日本語 OpenVMS 概説書』を参照してください。

## 1.5 環境

### 1.5.1 ハードウェア

弊社製の漢字ターミナルおよびプリンタのほとんどすべては、文字パターンのロード可能シーケンスを取り扱うことができ、ユーザ定義文字を表示または印字できます。

Character Manager (CMGR) ユーティリティを使用する場合、ユーザが文字パターンを編集する漢字ターミナルは、動的再定義可能文字セット (DRCS) をサポートしていなければなりません。DRCS についての詳しい説明は、『VT382 Programmer Reference Manual』を参照してください。

表 1-1 は、漢字フォント・システムのサポートの度合によって分類した漢字ターミナルとプリンタを示しています。

表 1-1 漢字ターミナルおよびプリンタでのユーザ定義文字のサポート

デバイス	フォント・エディタ	ユーザ定義文字の表示/印刷		
		プリローディング	オンデマンド・ローディング	漢字プリント・シンビオント
漢字ターミナル				
VT282 ビデオ・ターミナル	Yes	Yes	Yes	N/A
VT284 グラフィック・ターミナル	Yes	Yes	Yes	N/A
VT286 カラー・グラフィック・ターミナル	Yes	Yes	Yes	N/A
VT382 ビデオ・ターミナル	Yes	Yes	Yes	N/A

---

漢字プリンタ

---

LA86 グラフィック・プリンタ	N/A	Yes	No	Yes
LA88 グラフィック・プリンタ	N/A	Yes	No	Yes
LA90 グラフィック・プリンタ	N/A	Yes	No	Yes
LA280 ライン・プリンタ	N/A	Yes	No	Yes
LA380 ライン・プリンタ	N/A	Yes	No	Yes
LN03 レーザ・プリンタ	N/A	Yes	No	No
DEClaser 2300 レーザ・プリンタ	N/A	Yes	No	No

---

### 1.5.2 OpenVMS Cluster 環境での操作

複数のシステム・ディスクを持つ OpenVMS システムで構成されている OpenVMS Cluster 環境では、各 OpenVMS Cluster ノードは独自のシステム・フォント・データベースを持っています。したがって、1つのシステム・フォント・データベースを操作しても、他のシステム・フォント・データベースに影響を与えません。

このような不均質な OpenVMS Cluster 環境でシステム・フォント・データベース間の互換性を維持するのは、その OpenVMS Cluster システムのシステム管理者の責任となります。

---

## 日本語ターミナル・ドライバとフォント・ハンドラ

この章では、日本語ターミナル・ドライバとフォント・ハンドラの機能について説明します。

---

### 2.1 日本語ターミナル・ドライバ

漢字ターミナルのサポートのために提供されている日本語ターミナル・ドライバは、OpenVMS の標準ターミナル・ドライバの機能に加えて、次の機能を持ちます。

- 漢字コードの処理
- 半角カタカナ・コードの処理
- オンデマンド・ローディングのサポート

これらの機能は、KANJIEN ユーティリティで漢字ターミナルに対して設定した場合にのみ作動し、その他の場合は OpenVMS の標準ターミナル・ドライバと同じ機能となります。

日本語ターミナル・ドライバには、次のものがあります。

- 日本語 OpenVMS Alpha および日本語 OpenVMS Integrity:  
JSY\$ASDRIVER SYS\$TTDRIVER JSY\$FHDRIVER
- 日本語 OpenVMS VAX :  
ASDRIVER KJDRIVER FHDRIVER

#### 2.1.1 日本語ターミナル・ドライバの処理

日本語ターミナル・ドライバは、標準ドライバの機能に加えて以下の処理を行います。

##### 1. 文字パターン・データのオンデマンド・ローディング出力

日本語ターミナル・ドライバは、漢字ターミナルのフォント ROM がない文字パターンを必要に応じて出力する機能を提供します。

オンデマンド・ローディングについての詳しい説明は、第 2.2 節をご覧ください。

##### 2. 罫線漢字コードの変換

## 日本語ターミナル・ドライバとフォント・ハンドラ

### 2.1 日本語ターミナル・ドライバ

DEC 漢字 1983 年版罫線コードを、DEC 漢字文字セットの、DEC 確保領域内にある DEC 罫線に変換します。これにより、DEC 漢字 1978 年版の漢字ターミナルで罫線を表示できます。

#### 3. 日本語文字コードの入出力

Super DEC 漢字の文字コードが文字として扱われるように、以下の取り扱いを変更します。

- 省略時の終了文字から SS2 を取り除く
- SS2 をエスケープ文字として扱わない
- SS2 による半角カタカナ + 入力を有効にする
- コマンド行の文字列の編集を、文字単位で行う

上記の機能は、KANJIEN ユーティリティの文字単位編集機能によって設定されます。

### 2.1.2 標準ターミナル・ドライバとの切り換え

#### 2.1.2.1 VAX 版の場合

日本語 OpenVMS VAX では、標準ターミナル・ドライバと日本語ターミナル・ドライバの切り換えは、次のようにして行います。

##### 1. 日本語ターミナル・ドライバへの切り換え

JSY\$SYSTEM:JSY\$SETPARAMS.COM を使用します。このコマンド・プロシージャは、以下の処理を行います。

- SY\$SYSTEM:MODPARAMS.DAT を編集して、システム・パラメータの TTY\_CLASSNAME の定義を "KJ" に変更します。
- AUTOGEN ユーティリティを起動してシステムをリポートすると、日本語ターミナル・ドライバが使用されます。

##### 2. 標準ターミナル・ドライバへの切り換え

JSY\$SYSTEM:JSY\$RESETPARAMS.COM を使用します。このコマンド・プロシージャは、以下の処理を行います。

- SY\$SYSTEM:MODPARAMS.DAT を編集して、システム・パラメータの TTY\_CLASSNAME の定義を "TT" に変更します。
- AUTOGEN ユーティリティを起動してシステムをリポートすると、標準ターミナル・ドライバが使用されます。

通常は、ターミナル・ドライバを切り換える必要はありませんが、日本語 OpenVMS のバージョン・アップの際に必要な場合があります。

### 2.1.2.2 Alpha 版および Integrity 版の場合

日本語 OpenVMS Alpha V6.2 以降あるいは日本語 OpenVMS Integrity では、日本語を使う場合でも標準ターミナル・ドライバを使用します。システム・パラメータの TTY\_CLASSNAME の定義は "TT" に設定します。TTY\_CLASSNAME のデフォルト値は "TT" ですので、通常は TTY\_CLASSNAME の定義を変更する必要はありません。

---

## 2.2 オンデマンド・ローディング

この節では、オンデマンド・ローディングについて説明します。

### 2.2.1 概要

漢字ターミナルには、そのフォント ROM に JIS X0208 第 1 水準の漢字のみを持つもの、第 2 水準まで持つものなどさまざまですが、日本語 OpenVMS は漢字ターミナルにない漢字も自由に使用できるように、オンデマンド・ローディング機能を提供します。

オンデマンド・ローディングとは、漢字ターミナルのフォント ROM にない文字パターンを検知し、必要に応じて対応する文字パターンを漢字ターミナルに送って、文字の出力を可能にする機能です。

漢字ターミナルのフォント ROM にない文字パターンを検知した場合、日本語ターミナル・ドライバが補助プロセスであるフォント・ハンドラに漢字コードを通知します。フォント・ハンドラは、システムのフォント・データベースを読み、その漢字コードの文字パターンを漢字ターミナルに送ります。

このオンデマンド・ローディング処理を行うかどうかは、KANJIEN ユーティリティで各漢字ターミナルごとに指定できます。

### 2.2.2 ソフトウェア・オンデマンド・ローディング

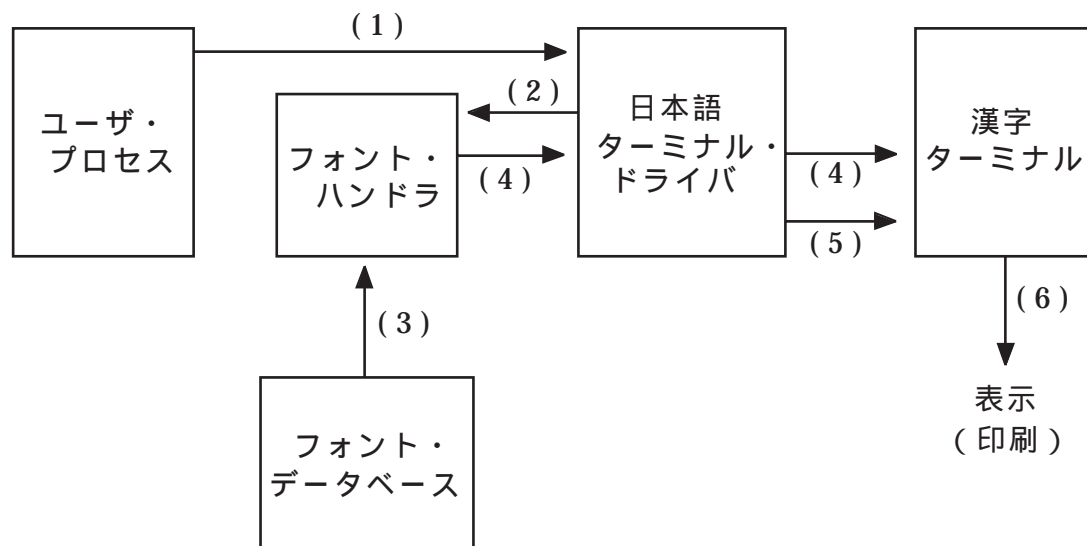
ソフトウェア・オンデマンド・ローディングとは、漢字ターミナルのフォント要求機能を用いないオンデマンド・ローディング機能です。漢字ターミナルが接続されているシリアル・ライン・インタフェースの種類、ターミナル・サーバの種類およびバージョンにかかわらず、使用することができます。

ただし、1 つのターミナルからターミナル・サーバ経由で複数のセッションを使用している場合、その各セッションで同時にソフトウェア・オンデマンド・ローディングを使用することはできません。その場合はハードウェア・オンデマンド・ローディングを使用してください。



ハードウェア・オンデマンド・ローディング処理の流れを図 2-1 に示します。

図 2-1 ソフトウェア・オンデマンド・ローディングの流れ



1. ユーザ・プロセスは、日本語ターミナル・ドライバへ表示する漢字コードを送る。
2. 日本語ターミナル・ドライバは、受け取った漢字コードが漢字ターミナルのフォント ROM にあるかどうか調べ、もしなければフォント・ハンドラに文字パターンの要求を行う。
3. フォント・ハンドラは、要求された漢字コードに対応する文字パターンを、フォント・データベースより読み込む。
4. フォント・ハンドラは、日本語ターミナル・ドライバに文字パターンの出力を依頼し、日本語ターミナル・ドライバは文字パターンを漢字ターミナルに送る。
5. 日本語ターミナル・ドライバは、漢字コードを漢字ターミナルに送る。
6. 漢字ターミナルは、文字パターンをフォント RAM に記憶し、表示または印刷する。

### 2.2.3 ハードウェア・オンデマンド・ローディング

ハードウェア・オンデマンド・ローディングとは、漢字ターミナルのフォント要求機能を用いるオンデマンド・ローディング機能です。漢字ターミナル自身がフォントの管理を行うため、ターミナル・サーバ経由で複数のセッションを使用している場合でも、オンデマンド・ローディングを行うことができます。

ただし、1つのターミナルからターミナル・サーバ経由で複数のノードへ接続して、その各セッションで同時にオンデマンド・ローディングを使用する場合は、接続している全てのノードのフォント・データベースの内容が同一である必要があります。

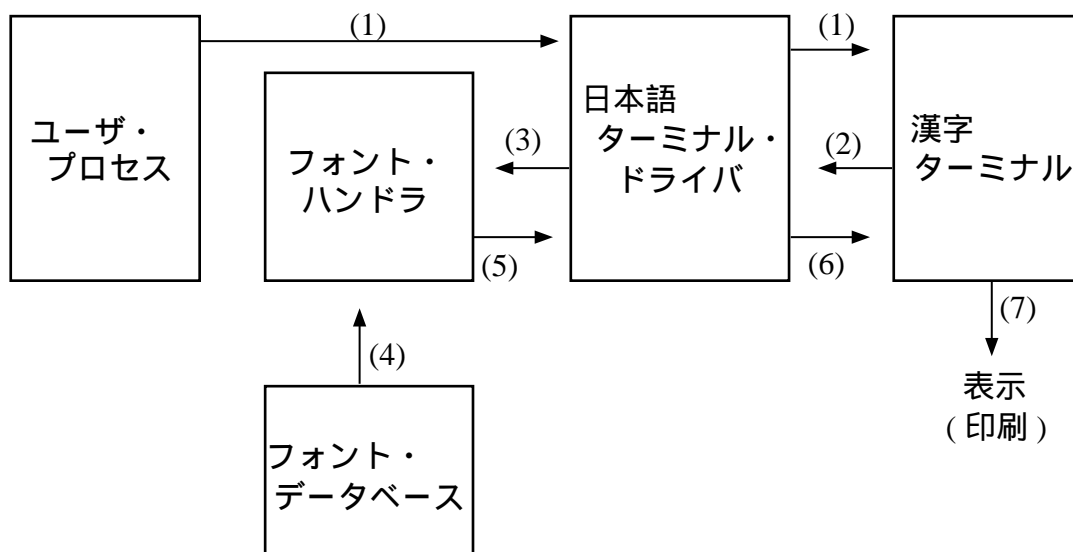
ハードウェア・オンデマンド・ローディングを使用できるのは、以下のターミナル・サーバ経由の接続の場合のみです。

- DECserver200
- DECserver300
- DECserver500
- DECserver700
- DECserver90M
- DECserver90L+
- DECserver90TL

これら以外のインタフェースでオンデマンド・ローディングを行う場合には、ソフトウェア・オンデマンド・ローディングを使用してください。

ハードウェア・オンデマンド・ローディング処理の流れを図 2-2 に示します。

図 2-2 ハードウェア・オンデマンド・ローディングの流れ



1. ユーザ・プロセスは、日本語ターミナル・ドライバを通して漢字コードを漢字ターミナルに出力する。
2. 漢字ターミナルは、出力しようとする漢字の文字パターンが漢字ターミナル中にあるかどうか調べ、もしなければ文字パターンの要求を行う。
3. 日本語ターミナル・ドライバは、フォント・ハンドラの AST ルーチンを起動すると共に、漢字コードを引き渡す。

4. フォント・ハンドラは、要求された漢字コードに対応する文字パターンを、フォント・データベースより読み込む。
5. フォント・ハンドラは、日本語ターミナル・ドライバに文字パターンの出力を依頼する。
6. 日本語ターミナル・ドライバは、他のデータに優先して文字パターンを漢字ターミナルに送る。
7. 漢字ターミナルは、文字パターンをフォント RAM に記憶し、表示または印刷する。

#### 2.2.4 オンデマンド・ローディングの使用方法

オンデマンド・ローディングを使用するには、KANJIGEN ユーティリティの/FONT 修飾子を使用して、指定した漢字ターミナルに対するオンデマンド・ローディング処理を有効にしてください (KANJIGEN ユーティリティについては、第 5 章を参照)。

オンデマンド・ローディングをサポートする装置については、表 1-1 を参照してください。一部の漢字プリンタでは、オンデマンド・ローディングがサポートされていますが、漢字プリンタに対しては漢字プリント・シンピオントを使用するようにしてください。漢字プリント・シンピオントについては、第 3 章を参照してください。

#### 2.2.5 注意および制限事項

- VT 端末装置のセットアップの設定は、次のようにしてください。
  - ソフトウェア・オンデマンド・ローディングを使用する場合：  
「オンデマンド・ローディングなし」に設定。
  - ハードウェア・オンデマンド・ローディングを使用する場合：  
「オンデマンド・ローディングあり」に設定。
- オンデマンド・ローディングで使用される文字パターンは、CMGR\_DEFAULT データベースに登録されている文字パターンです。
- ターミナル・サーバの FORWARD SWITCH や BACKWARD SWITCH , LOCAL SWITCH に印字可能な文字 (ASCII 文字等) を指定すると、オンデマンド・ローディングの処理に異常が発生したり、ターミナルがハングする可能性があります。

---

## 2.3 フォント・ハンドラ

フォント・ハンドラはシステムに 1 つだけ存在する、オンデマンド・ローディング用の補助プロセスで、ユーザとは直接には関係せず独立して動作します。

### 1. 起動

フォント・ハンドラ・プロセスは、日本語 OpenVMS の起動時に自動的に作成されます。

## 2. 属性

フォント・ハンドラの主な属性を以下に示します。

- プロセス名            JSY\$FS\_JA\_JP\_01
- 優先順位             8
- UIC                    [1,20]

---

## 漢字プリント・シンビオント

この章では、漢字プリント・シンビオントについて説明します。

---

### 3.1 概要

漢字プリント・シンビオントは、OpenVMS オペレーティング・システムの標準プリント・シンビオントの機能に加え、拡張漢字や JIS X 0208 第 2 水準漢字 (ハードウェアに無い場合) を印字する機能を持つ漢字プリンタの専用シンビオントです。本章では、漢字プリント・シンビオントと標準プリント・シンビオントの違いを説明します。

---

### 3.2 漢字プリント・シンビオントが行う処理

漢字プリント・シンビオントは標準プリント・シンビオントの処理に加えて、以下の処理を行います。

- キューの起動時に論理名 JSY\$PRTSMB\_HWTYPE\_queue-name (queue-name には、実際のキュー名を設定) を評価することで、接続されているプリンタについて、JIS X 0208 第 2 水準漢字のフォント ROM を持っているか、漢字コードのバージョンが 1978 年版であるか 1983 年版であるかを調べる。
- 印刷するファイルを読み込み、プリンタに転送する際に、拡張漢字または JIS X 0208 第 2 水準漢字が存在するかどうかを調べる。
- 印刷するファイル内に見つかった拡張漢字または JIS X 0208 第 2 水準漢字に相当する文字パターンの定義がフォント・データベースにあれば、その定義をプリンタに転送する。
- プリンタの漢字コードのバージョンが 1978 年版であれば、野線コードのコード変換を行う。

---

### 3.3 プリンタ・ハードウェア・タイプ論理名

漢字プリント・シンビオントの起動時に、論理名 JSY\$PRTSMB\_HWTYPE\_queue-name により接続されている漢字プリンタのタイプを指定します。指定可能な値は 0 から 2 で、以下の表で示されるハードウェアのタイプに相当します。

## 漢字プリント・シンビオント

### 3.3 プリンタ・ハードウェア・タイプ論理名

漢字コード	プリンタの ROM 第 1 水準	プリンタの ROM 第 2 水準
JIS X0208-1978	2	1
JIS X0208-1983	設定できません	0 <sup>1</sup>

<sup>1</sup>省略時または未定義時にはこの設定となります。

漢字プリント・シンビオントが論理名を参照するためには、論理名がシステム論理名テーブルになければなりません。つまり JSY\$PRTSMB\_HWTYPE\_queue-name 論理名は DCL コマンドの DEFINE/SYSTEM, または ASSIGN/SYSTEM を使用して定義しなければなりません。

---

## 3.4 漢字プリント・シンビオントの種類

漢字プリント・シンビオントは 2 種類あり、漢字プリンタの接続形式により使い分ける必要があります。

- JSY\$PRTSMB.EXE :  
直接ホストに接続されている漢字プリンタに使用
- JSY\$LATSYSM.EXE :  
ターミナル・サーバ経由でホストに接続されている漢字プリンタに使用

---

## 3.5 サポートする漢字プリンタ

漢字プリント・シンビオントは、以下の漢字プリンタをサポートします。

- LA86
- LA88
- LA90
- LA280
- LA380

漢字プリント・シンビオントは LN03, DEClaser 2300 および DEClaser 2400 をサポートしません。これらのプリンタには、標準版の PRTSMB.EXE または LATSYSM.EXE を使用し、ユーザ定義文字の印刷にはプリローディングを使用してください。

## 3.6 プリント・キューの設定方法

プリント・キューの設定方法については、『OpenVMS システム管理者マニュアル』を参照してください。

漢字プリント・シンビオントを使用するプリント・キュー設定の具体例については、『日本語 OpenVMS 概説書』を参照してください。

---

## 3.7 注意および制限事項

- 漢字プリンタのオンデマンド・ローディング機能は、DISABLE に設定してください。
- テキストの印刷に先立ち、プリロード・ファイル内の文字パターン定義をプリンタのフォント RAM に保存した場合でも、システム・フォント・データベースに登録してある文字パターンが印字されます。
- 印刷するファイル内に、プリンタの文字セットを変更するエスケープ・シーケンスやコントロール・コードが存在する場合には、正しく印字されない場合があります。
- 漢字プリンタに印字される文字パターンは、CMGR\_DEFAULT フォント・データベースに登録されている文字パターンです。

---

## Character Manager (CMGR) ユーティリティ

この章では、Character Manager (CMGR) ユーティリティについて説明します。

---

### 4.1 概要

Character Manager (CMGR) ユーティリティは、システム・フォント・データベースの管理およびプリローディング用ファイルの作成を行います。

---

### 4.2 起動方法

CMGR ユーティリティは、DCL コマンドの CHARACTER\_MANAGER によって起動され、CMGR>というプロンプトがディスプレイに表示されます。このプロンプトに対して、ユーザはCMGR コマンドを入力することにより、様々な機能を実行できます。また、CMGR コマンドはDCL レベルからも起動でき、その場合には、先頭に CHARACTER\_MANAGER という DCL コマンドを指定します。

ただし、EDIT コマンドによるフォント・エディタの起動は、日本語 DECwindows の日本語ターミナル・エミュレータを通じてはできません。

---

### 4.3 ファイル形式

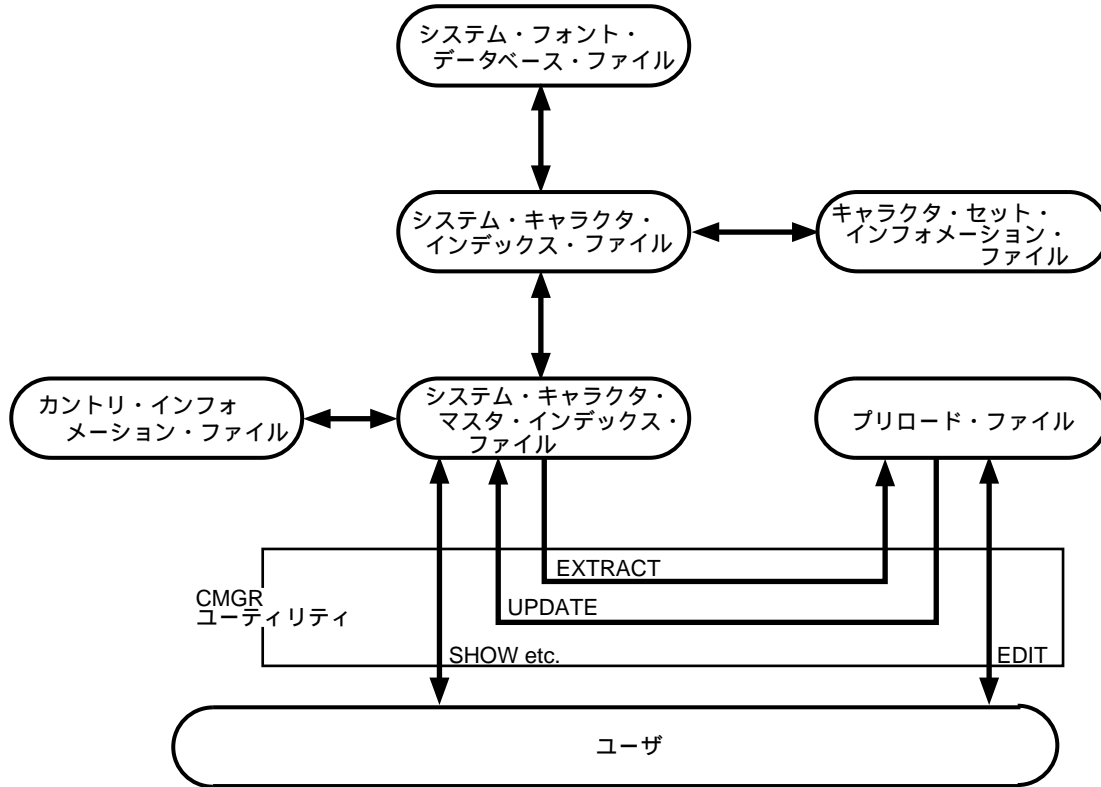
この節では、CMGR のファイル形式について説明します。図 4-1 はフォント・システムの概略を示しています。

#### 4.3.1 システム・キャラクタ・マスタ・インデックス・ファイル

システム・キャラクタ・マスタ・インデックス・ファイル JSY\$CHARACTER\_MASTER\_INDEX.DAT は、可変長レコードの順編成テキスト・ファイルであり、日本語 OpenVMS のシステム・ディレクトリ (JSY\$SYSTEM) に登録されています。このファイルは、CMGR\$MASTER というエグゼクティブ・モードのシステム論理名によって参照されます。このファイルは、それぞれのデータベースのシステム・キャラクタ・インデックス・ファイルとキャラクタ・セット・インフォメーション・ファイルに対するポインタとして使用されます。また、フォント・システムのカントリ・インフォメーション・ファイルに対するポインタとしても使用されます。



図 4-1 フォント・システム概略図



これはフォント・システムで使用されるシステム・ファイルであり、ユーザやシステム管理者はこのファイルを変更してはいけません。

#### 4.3.2 カントリ・インフォメーション・ファイル

カントリ・インフォメーション・ファイル JSY\$JAPAN\_SPECIFIC.DAT は、可変長レコードの順編成テキスト・ファイルであり、日本語 OpenVMS のシステム・ディレクトリ (JSY\$SYSTEM) に登録されます。

これはフォント・システムで使用されるシステム・ファイルであり、ユーザとシステム管理者はこのファイルを変更してはいけません。

#### 4.3.3 キャラクタ・セット・インフォメーション・ファイル

キャラクタ・セット・インフォメーション・ファイル JSY\$DECKANJI\_CODE\_INFO.DAT は、可変長レコードの順編成テキスト・ファイルであり、日本語 OpenVMS のシステム・ディレクトリ (JSY\$SYSTEM) に登録されます。

これはフォント・システムで使用されるシステム・ファイルであり、ユーザとシステム管理者はこのファイルを変更してはいけません。

#### 4.3.4 システム・キャラクタ・インデックス・ファイル

システム・キャラクタ・インデックス・ファイルは、可変長レコードの順編成テキスト・ファイルであり、日本語 OpenVMS のシステム・ディレクトリ (JSY\$SYSTEM) に登録されます。ファイル名は JSY\$xxx\_CHARACTER\_INDEX.DAT という形式です。ここで、xxx はデータベース名を示します。ただし、JSY\$CHARACTER\_INDEX.DAT という名前は省略時のデータベースに対して使用されます。

このファイルは、特定の文字コード範囲とフォント・サイズに対して、システム・フォント・データベース・ファイルを示すポインタとして使用されます。CMGR\$DATABASE\_NAME という論理名は、オペレータのプロセスで現在参照されているシステム・キャラクタ・インデックス・ファイルを示すために使用されます。

これはフォント・システムで使用されるシステム・ファイルであり、ユーザとシステム管理者はこのファイルを変更してはいけません。

#### 4.3.5 システム・フォント・データベース

システム・フォント・データベースは、固定長レコードの複数の索引順編成ファイルで構成され、日本語 OpenVMS のシステム・ディレクトリ (JSY\$SYSTEM) に登録されます。システム・フォント・データベースは、24 × 24、32 × 32、40 × 40 などのフォント・サイズ、ユーザ定義文字や JIS X 0208 第 2 水準漢字などの文字範囲の両方によって、複数のファイルに分類されます。24 × 24、32 × 32、および 40 × 40 ドットのフォント・サイズに対するシステム・フォント・データベース・ファイルには、ロード可能なフォーマットで文字パターンが格納されます。

フォント・サイズと文字範囲の両方の基準によって、システム・フォント・データベース・ファイルを区別するために、これらのファイルには JSY\$xxx\_nnXnn\_yyy.GDB という形式の名前が付けられます。ここで、"xxx" はデータベース名であり、"nn" はファイル内のユーザ定義文字のフォント・サイズを示し、"yyy" は文字の範囲を示します。たとえば、JSY\$GOTHIC\_24X24\_USER.GDB は、フォント・サイズが 24 × 24 ドットであり、データベース名が GOTHIC であるユーザ定義文字のフォント・データベース・ファイルです。

#### 4.3.6 プリロード・ファイル

プリロード・ファイルはユーザ・ファイルであり、ユーザ定義文字のロード可能シーケンスが格納されます。これは可変長レコードの順編成ファイルです。プリロード・ファイルには、異なるフォント・サイズのロード可能シーケンスを格納できます。ユーザ定義文字の文字パターンは、このファイルに対して DCL コマンドの TYPE を実行することにより漢字ターミナルの、また、PRINT を実行することによりプリンタのフォント RAM にロードできます。出力先装置のフォント・サイズと一致しないシーケンスは無視され、破棄されます。このファイルの省略時のファイル拡張は ".PRE" です。

---

## 4.4 CMGR コマンド

この節では、Character Manager (CMGR) バージョン 2.0 でサポートされる CMGR のコマンドについて説明します。

表 4-1 に CMGR のコマンドをまとめます。

表 4-1 Character Manager (CMGR) のコマンドの一覧

---

Character Manager (CMGR) コマンド	説明
CONVERT DATABASE	フォント・データベース・フォーマットを変換する
CONVERT FONT_FILE	フォント・ファイルをプリロード・ファイルに変換する
CONVERT FONT_SIZE	プリロード・ファイル内の文字パターンのサイズを変換する
COPY	データベース内の文字パターンをコピーする
EDIT	文字パターンを編集する
EXIT	CMGR を終了する
EXTRACT CODE	指定された文字コードに対するプリロード・ファイルを作成する
EXTRACT REFERENCE	指定されたテキスト・ファイル内のユーザ定義文字に対してプリロード・ファイルを作成する
HELP	ヘルプ・テキストを表示する
REMOVE	文字パターンをデータベースから削除する
SET DATABASE	指定されたデータベースへのアクセスを設定する
SHOW BITMAP	文字パターンをビットマップ形式で表示する
SHOW DATABASE	データベース名を表示する
SHOW CHARACTER_SET	文字コード情報を表示する
SHOW TABLE	文字コード・テーブルを表示する
SHOW VERSION	CMGR のソフトウェア・バージョンを表示する
UPDATE	文字パターンをデータベースに登録する

---

次に CMGR のコマンドについて詳しく説明します。

---

## CONVERT DATABASE (VAX のみ)

Character Manager (CMGR) のもとで使用するために、システム・フォント・データベースを CMGR 以前のファイル・フォーマットから新しいファイル・フォーマットに変換します。

---

### 注意

このコマンドは、日本語 OpenVMS VAX 上でのフォント・データベースの互換性を維持するためのもので、日本語 OpenVMS Alpha および日本語 OpenVMS Integrity では使用できません。

---



---

### 形式

CONVERT DATABASE

コマンド修飾子  
/CONFIRM  
/LOG

省略時設定  
/CONFIRM  
/LOG

---

### 制限事項

このコマンドを使用するには、SYSPRV 特権が必要です。この特権がない場合には、エラー・メッセージが表示され、CONVERT DATABASE コマンドは無視されます。

---

### コマンド修飾子

/CONFIRM  
/NOCONFIRM

文字コードの文字パターンが、新しいシステム・フォント・データベースにすでに登録されているときに、CONVERT DATABASE コマンドが確認を要求するかどうかを制御します。CONVERT DATABASE コマンドが 2 回以上実行された場合に、確認メッセージが表示される可能性があります。

肯定応答は YES, TRUE, および 1 です。否定応答は NO, FALSE, 0 および **[Return]** キーです。QUIT または **[Ctrl/Z]** を入力すると、CONVERT DATABASE コマンドはその時点で処理を停止します。ALL を入力した場合には、CONVERT DATABASE コマンドは処理を継続し、その後、プロンプトを表示しません。

ユーザが操作の実行を確認した場合には、CONVERT DATABASE コマンドは新しいシステム・フォント・データベース内の文字パターンの上に古いシステム・フォント・データベースのパターンを重ね書きします。

省略時の設定では、/CONFIRM が指定されているものと解釈されます。

/LOG  
/NOLOG

文字パターンを変換する文字コードを、CONVERT DATABASE コマンドが表示するかどうかを制御します。/LOG 修飾子を指定した場合には、CONVERT DATABASE コマンドは変換された文字パターンの総数も表示します。

省略時の設定では、/LOG が指定されているものと解釈されます。

---

### 説明

日本語VAX/VMS V5.5 より前のシステム・フォント・データベースは、日本語システム・ディレクトリ (JSY\$SYSTEM) に登録されている 2 つのファイル (FONT.DAT と FONT1.DAT) で構成されていましたが、日本語VAX/VMS V5.5 からの新しいシステム・フォント・データベースは複数のファイルで構成されています。これらのファイルの名前は、JSY\$SYSTEM:JSY\$xxx\_nnXnn\_yyy.GDB という形式です。ここで xxx はデータベース名を示し、nn はフォント・サイズを示し、yyy は文字コード・クラスを示します。

CONVERT DATABASE コマンドは FONT1.DAT から文字パターン・データを読み込み、それを新しいデータ・フォーマットに変換し、変換したデータを新しいシステム・フォント・データベース・ファイルに出力します。新しいファイルのファイル名は、コード範囲とフォント・サイズによってシステム・キャラクタ・インデックス・ファイルに定義されています。変換後のデータが格納されるデータベースの名前は SET DATABASE コマンドによって選択できます。

このコマンドは、日本語VAX/VMS V5.5 より前のシステムを日本語 OpenVMS VAX V6.0 へアップグレードした際に、システム管理者が実行しなければなりません。このコマンドを使用してシステム・フォント・データベースを変換した後、システム管理者がこのコマンドを再度使用する必要はありません。

このコマンドを 2 回以上実行する場合には、新しいシステム・フォント・データベースに格納されている文字パターンの上に、FONT1.DAT に格納されていた文字パターンが重ね書きされる可能性があります。

---

例

```

1. $ CHARACTER_MANAGER CONVERT DATABASE
   %CMGR-I-READFIL, Reading file, JSY$SYSTEM:FONT1.DAT
   %CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A121 is converted
   %CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A122 is converted
   %CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A221 is converted
   %CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A222 is converted
   %CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A223 is converted
   %CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A224 is converted
   %CMGR-I-FDBCONEVD, Total 6 patterns converted to CMGR_DEFAULT Database

```

CONVERT DATABASE コマンドは、古いシステム・フォント・データベース (FONT.DAT と FONT1.DAT) を新しいシステム・フォント・データベース (JSY\$GLYPH\_nnXnm\_yyy.GDB) に変換します。この例では、6つの文字パターンが変換され、CMGR\_DEFAULT という名前の新しいシステム・フォント・データベースに登録されます。

---

## CONVERT FONT\_FILE

フォント・ファイル内の文字パターンが、CMGRユーティリティで使用できるように、フォント・ファイルをプリロード・ファイルに変換します。

---

### 形式

```
CONVERT FONT_FILE input-file[...] output-file
```

コマンド修飾子	省略時設定
/LOG	/LOG

---

### パラメータ

*input-file[...]*

特定のフォント・サイズの文字パターン・シーケンスが、ビットマップ形式で格納されている、1つ以上のプリロード・ファイルを指定します。

ファイル指定において、ワイルドカードが使用できます。

*output-file*

変換後の文字パターンを出力する、プリロード・ファイルを指定します。

---

### コマンド修飾子

/LOG

/NOLOG

文字パターンを変換した文字コードのコード指定を、CONVERT FONT\_FILE コマンドが表示するかどうかを制御します。/LOG 修飾子を指定した場合には、CONVERT FONT\_FILE コマンドは変換した文字の総数も表示します。

省略時の設定では、/LOG が指定されているものと解釈されます。

---

### 説明

CONVERT FONT\_FILE コマンドは、入力ファイルからビットマップ形式の文字パターンのデータを読み込み、それらを新しいデータ形式に変換して、変換後のデータを指定されたプリロード・ファイルに出力します。

旧来のフォント・エディタである FEDIT ユーティリティは、ビットマップ形式で文字パターンを格納したフォント・ファイルを作成しますが、CMGR ユーティリティの、EDIT コマンドはプリロード・ファイルを作成し、フォント・ファイルの文字パターンのデータ形式はサポートしません。したがって、フォント・ファイルを持つユーザは、文字パターンのデータ形式を変換するために CONVERT FONT\_FILE コマンドを使用してください。

---

## 例

1. \$ CHARACTER\_MANAGER CONVERT FONT\_FILE FONT.FNT PRELOAD.PRE  
%CMGR-I-READFIL, Reading file DISK\$:[DIRE]FONT.FNT;1  
%CMGR-S-FONCONV, Font pattern of size 24x24 for code A121 converted  
%CMGR-S-FONCONV, Font pattern of size 24x24 for code A122 converted  
%CMGR-S-FONCONV, Font pattern of size 24x24 for code A123 converted  
%CMGR-I-FONWRITN, 3 font patterns written to file DISK\$:[DIRE]PRELOAD.PRE;1

この例では、CONVERT FONT\_FILE コマンドは、FONT.FNT 内の 24 × 24 ドット・サイズの 3 つの文字パターンを変換します。変換後の文字パターンは PRELOAD.PRE に出力されます。



---

## CONVERT FONT\_SIZE

プリロード・ファイル内のロード可能な文字パターンのフォント・サイズを、別のフォント・サイズに変換し、変換後のパターンのロード可能シーケンスを、ファイルに出力します。

---

### 形式

CONVERT FONT\_SIZE *input-file[,...]* *output-file*

コマンド修飾子	省略時設定
/SIZE=font-size	/SIZE=24
/LOG	/LOG

---

### パラメータ

*input-file[,...]*

特定のフォント・サイズのロード可能な文字パターン・シーケンスが格納されている、1つ以上のプリロード・ファイルを指定します。

複数の入力ファイルを指定する場合には、各ファイル指定をコンマ (,) で区切ります。この記号は、指定されたファイル内のすべてのロード可能シーケンスが、/SIZE 修飾子に指定されたフォント・サイズに変換されることを示します。

入力ファイル指定では、ワイルドカードを使用できます。

*output-file*

変換後のロード可能シーケンスを出力する、出力ファイルを指定します。

---

### コマンド修飾子

/SIZE=font-size

変換するフォント・サイズを選択します。指定できる値は 24, 32, 40 のいずれかです。24, 32, および 40 という値はそれぞれ、出力フォント・サイズが 24 × 24 ドット, 32 × 32 ドット, および 40 × 40 ドットであることを示します。

この修飾子を指定しなかった場合には、/SIZE=24 であるものと解釈されます。

/LOG

/NOLOG

文字パターンを変換した文字コードのコード指定を、CONVERT FONT\_SIZE コマンドが表示するかどうかを制御します。/LOG 修飾子を指定した場合には、CONVERT FONT\_SIZE コマンドは変換した文字の総数も表示します。

省略時の設定では、/LOG が指定されているものと解釈されます。

## 説明

CONVERT FONT\_SIZE コマンドは、入力ファイル内のロード可能な文字パターン・シーケンスのフォント・サイズを変換し、変換後のロード可能シーケンスをファイルに出力します。

/SIZE 修飾子に指定された、フォント・サイズのロード可能シーケンスが、すでに入力ファイルに格納されている場合には、CONVERT FONT\_SIZE コマンドはそのシーケンスを、指定された出力ファイルに単にコピーします。

複数の入力ファイルを指定したときに、1つの文字コードに対して複数のロード可能シーケンスが存在する場合には、最後に検出された最も近いフォント・サイズのロード可能シーケンスが変換されます。

## 例

- ```

$ CHARACTER_MANAGER CONVERT FONT_SIZE /SIZE=32 FONT24.PRE FONT32.PRE
%CMGR-I-READFIL, Reading file DISK$:[DIRE]FONT24.PRE;1
%CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A121 is converted
%CMGR-S-FONTCONVTD, Font Data of A122 is converted
%CMGR-I-GLYLPHOUT, 2 patterns written in DISK$:[DIRE]FONT32.PRE

```

この例では、CONVERT FONT\_SIZE コマンドは、FONT24.PRE 内の A121 と A122 という文字コードのロード可能文字パターンを、32 × 32 ドット・サイズのパターンに変換します。変換後のパターンは、FONT32.PRE に出力されます。

---

## COPY

システム・データベース内の指定した文字コードの文字パターンを、別の文字コードの文字パターンとしてコピーし、登録します。

---

### 形式

`COPY input-code[,...] output-code[,...]`

|                                      |                           |
|--------------------------------------|---------------------------|
| コマンド修飾子                              | 省略時設定                     |
| <code>/CONFIRM[=condition]</code>    | <code>/CONFIRM=ALL</code> |
| <code>/LOG</code>                    | <code>/LOG</code>         |
| <code>/SIZE=(font-size[,...])</code> | <code>/SIZE=ALL</code>    |

---

### 制限事項

COPY コマンドを使用するには、SYSPRV 特権が必要です。この特権がない場合には、エラー・メッセージが表示され、COPY コマンドは無視されます。

複数のシステム・フォント・データベースを持つ環境のもとで、2つのデータベースの間で実行されるコピー操作は、サポートされません。2つのデータベース間でのコピー操作には、EXTRACT CODE と SET DATABASE、UPDATE の各コマンドを使用してください。

---

### パラメータ

`input-code[,...]`

文字パターンのコピー元の文字コードを、16進数で指定します。

複数の文字コードを指定する場合には、各文字コードをコンマ(,)で区切ります。コード範囲によって入力文字コードを指定する場合には、各指定をハイフン(-)で区切ります。この記号は、2つの文字コードによって指定される範囲内のすべての文字コードに対してCOPY コマンドが実行されることを示します。この場合、最初の文字コードは2番目の文字コードより小さい値でなければなりません。

アスタリスク(\*)を単独で使用すれば、すべてのユーザ定義文字コードを指定できます。

`output-code[,...]`

文字パターンのコピー先の文字コードを、16進数で指定します。

複数の文字コードを指定する場合には、各文字コードをコンマ (,) で区切ります。コード範囲によって出力文字コードを指定する場合には、各指定をハイフン (-) で区切ります。この記号は、2つの文字コードによって指定される範囲内のすべての文字コードに対して COPY コマンドが実行されることを示します。この場合、最初の文字コードは2番目の文字コードより小さい値でなければなりません。

アスタリスク (\*) を単独で使用すれば、すべてのユーザ定義文字コードを指定できます。

入力コード範囲が出力コード範囲より大きい場合には、指定された文字のうち、出力コードの数をこえる文字の文字パターンはコピーされません。入力コード範囲が出力コード範囲より小さい場合には、入力コードの数をこえる文字コードに対するコピー指定は無視されます。

---

## コマンド修飾子

/CONFIRM[=condition]  
/NOCONFIRM

特定の状況のもとで、コピー操作を確認するかどうかを選択します。キーワードとして ALL または CONFLICT を指定できます。

CONFLICT キーワードは、文字パターンの定義がコピー先文字コードに対してすでに存在する場合、確認を要求することを示します。ALL キーワードを指定した場合には、COPY コマンドはコピーするすべての文字コードに対して確認を要求します。

肯定応答は YES, TRUE, および 1 です。否定応答は NO, FALSE, 0 および **Return** キーです。QUIT または **Ctrl/Z** を入力すると、COPY コマンドの処理はその時点で停止します。ALL と入力した場合には、COPY コマンドは処理を継続し、その後、プロンプトを表示しません。

この修飾子を指定しなかった場合や、キーワードを指定しなかった場合には、/CONFIRM=ALL が指定されているものと解釈されます。

/LOG  
/NOLOG

COPY コマンドがコピーする各文字コードの文字コード指定を、表示するかどうかを制御します。/LOG 修飾子を指定した場合には、COPY コマンドは新しく作成した文字の総数も表示します。

この修飾子を指定しなかった場合には、/LOG が指定されているものと解釈されません。

/SIZE=(font-size[,...])

COPY コマンドによって、コピーされる文字パターンのフォント・サイズを指定します。

フォント・サイズとして指定できるのは 24, 32, および 40 の組み合わせか, または ALL キーワードです。24, 32, および 40 という値はそれぞれ, 24 × 24 ドット, 32 × 32 ドット, および 40 × 40 ドットで構成される文字パターンを示します。ALL キーワードは, すべてのフォント・サイズの文字パターンをコピーすることを示します。

この修飾子にフォント・サイズを 1 つだけしか指定しない場合には, 括弧は省略可能です。

この修飾子を指定しなかった場合には, /SIZE=ALL が指定されているものと解釈され, すべてのフォント・サイズの文字パターンがシステム・フォント・データベースにコピーされます。

## 説明

COPY コマンドは, システム・フォント・データベースに登録されているユーザ定義文字の文字パターンをコピーします。文字パターンは 1 つのデータベース内でだけコピーできます。つまり, SET DATABASE コマンドで選択したデータベース内でだけコピーできます。

このコマンドを使用すれば, システム管理者は異なるユーザ定義文字コードに対して同じ文字パターンを登録できます。

SYSPRV 特権を持つユーザはこのコマンドを使用できますが, 一般ユーザは使用できません。

## 例

```
1. $ CHARACTER_MANAGER COPY/SIZE=(24,32)/NOCONFIRM A121-A123,A232 B121-B124
   %CMGR-I-CPGFONT, Copying font pattern of size 24x24 in CMGR_DEFAULT database ...
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 24x24 copied from code A121 to code B121
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 24x24 copied from code A122 to code B122
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 24x24 copied from code A123 to code B123
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 24x24 copied from code A232 to code B124
   %CMGR-I-CPGFONT, Copying font pattern of size 32x32 in CMGR_DEFAULT database ...
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 32x32 copied from code A121 to code B121
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 32x32 copied from code A122 to code B122
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 32x32 copied from code A123 to code B123
   %CMGR-I-FONTCPD, Font pattern of size 32x32 copied from code A232 to code B124
   %CMGR-I-DBUPD, CMGR_DEFAULT System Database Updated
   $
```

この COPY コマンドは, 文字コードが A121, A122, A123, および A232 である 4 つの文字パターンをそれぞれ, 文字コード B121, B122, B123, B124 にコピーします。コピー操作は, フォント・サイズが 24 × 24 および 32 × 32 ドット

の文字パターンに対して実行されますが、40 × 40 ドットの文字パターンに対しては実行されません。

---

## EDIT

フォント・エディタを起動し、プリロード・ファイルに文字パターンを作成したり、既存の文字パターンを変更します。

---

### 形式

EDIT *input-file*

|                         |             |
|-------------------------|-------------|
| コマンド修飾子                 | 省略時設定       |
| /LOAD_GLYPH             | /LOAD_GLYPH |
| /LOG                    | /LOG        |
| /SIZE=(font-size[,...]) | /SIZE=ALL   |

---

### 制限事項

書き込みアクセス権を持たないファイルを編集した場合には、編集結果は、SYS\$SCRATCH という論理名で定義されているデバイス・ディレクトリ内のファイルに出力されます。

日本語 DECwindows の日本語ターミナル・エミュレータ上では、EDIT コマンドは使用できません。

---

### パラメータ

*input-file*

編集の対象となる入力ファイル名を指定します。ファイル・タイプを指定しなかった場合には、省略時のファイル・タイプとして ".PRE" が使用されます。

ファイル指定ではワイルドカードを使用できます。このとき、一致するファイルを検索できない場合や、複数のファイルが一致する場合には、エラー・メッセージが表示され、EDIT コマンドは無視されます。

---

### コマンド修飾子

/LOAD\_GLYPH  
/NOLOAD\_GLYPH

EDIT コマンドが文字パターンを表示するために、DRCS をロードするかどうかを指定します。DRCS がロードされ、ディスプレイ・ターミナルに格納された後は、漢字ターミナルをリセットするか、または電源を切断するまで、DRCS はク

リアされません。したがって、2回目以降にフォント・エディタを起動する場合には、/NOLOAD\_GLYPH 修飾子を使用すれば、起動速度を向上できます。

省略時の設定では、/LOAD\_GLYPH が指定されているものと解釈されます。

/LOG

/NOLOG

フォント・エディタが編集セッションで中に情報メッセージを表示するかどうかを制御します。

省略時の設定では、/LOG が指定されているものと解釈されます。

/SIZE=(font-size[,...])

文字パターンを編集する文字のフォント・サイズを指定します。

指定できる値は 24, 32, および 40 の組み合わせであるか、または ALL キーワードです。24, 32, および 40 という値はそれぞれ、文字パターンが 24 × 24 ドット, 32 × 32 ドット, および 40 × 40 ドットで構成されることを示します。1つのフォント・サイズだけしか指定しない場合には、括弧は省略できます。

ALL キーワードは、EDIT コマンドがすべてのフォント・サイズ (24 × 24, 32 × 32, および 40 × 40) を取り扱うことができることを示します。/SIZE=ALL は、/SIZE=(24, 32, 40) と同じです。

この修飾子を指定しなかった場合には、/SIZE=ALL が指定されているものと解釈されます。

---

## 説明

EDIT コマンドは、ユーザ定義文字の文字パターンを作成または変更するために、フォント・エディタを起動します。フォント編集の結果は、起動時に指定したプリロード・ファイルに出力されます。

プリロード・ファイルの内容は、UPDATE コマンドを使用してフォント・データベースに登録できます。

何らかの理由で、編集結果を指定されたファイルに出力できない場合には、結果は論理名 SYSSCRATCH で示されるデバイス上で、出力先として指定されたファイル名を持つファイルに出力されます。

フォント・エディタの使用

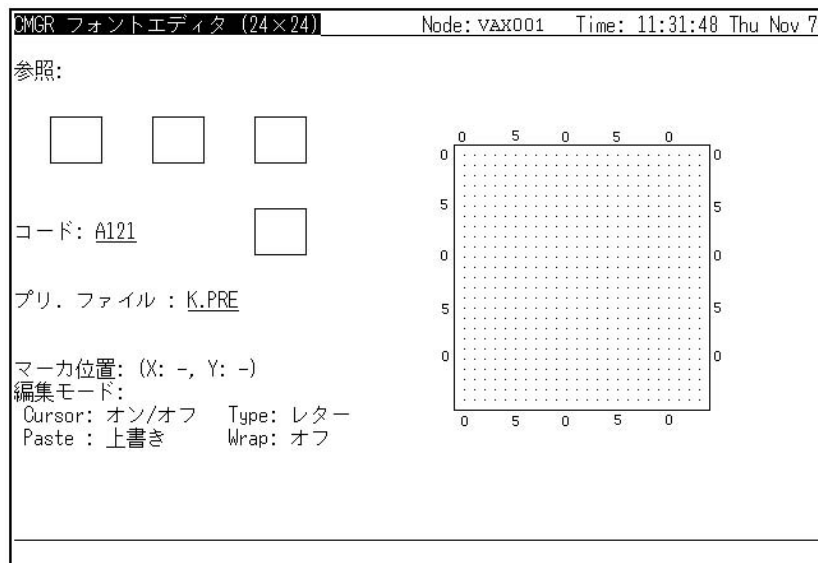


データ・ファイル入出力: フォント・エディタを起動すると、プリロード・ファイルが読み込まれます (ファイルが存在する場合)。フォント・エディタはファイルの内容をメモリに格納し、その後、フォント編集操作をメモリ内で実行します。

フォント編集画面: フォント・エディタがデータ・ファイルを読み込んだ後、ビットマップ・画面が表示されます。この画面で文字パターンを編集します。ユーザは **Enter** キーを押すことにより文字コードを指定し、その文字パターンを編集します。文字コードを指定した後、ユーザは編集ファンクション・キーを使用することにより、その文字コードの文字パターンを編集できます。編集ファンクション・キーについての詳しい説明は、この後の節を参照してください。

図 4-2 はフォント編集ディスプレイの例を示しています。

図 4-2 EDIT コマンドの編集画面



EDIT バッファと USE バッファ: 文字パターンを編集するためのバッファとして、EDIT バッファと USE バッファの2つのバッファがあります。EDIT バッファは、指定された文字コードの文字パターンを、作成/変更するために使用されます。USE バッファは、文字パターンの作成/変更で、別のユーザ定義文字の文字パターンの一部を利用するときに使用します。USE バッファ内では、大部分の編集キー機能は使用できません。

フォント編集の終了: フォント編集中に **Ctrl/Z** を押すと、フォント・エディタはメモリに格納されている文字パターンをファイルに出力し、フォント・エディタを終了します。フォント編集中に **Ctrl/C** を押した場合には、フォント・エディタは、編集結果を保存せずにフォント・エディタを終了してもかまわないかどうかの確認を要求し、ユーザが肯定応答を入力した場合には、フォント・エディタは編集結果をデータ・ファイルに保存せずに終了します。

#### ファンクション・キー

文字パターンを編集するために、フォント・エディタはキーパッドに対して一部の編集機能を定義しています。ユーザはこれらの編集キー機能を使用して文字パターンを編集できます。

アプリケーション・キーパッド・キー: EDIT コマンドは表 4-2 に示すように、アプリケーション・キーパッド・キーに対して編集機能を定義しています。

表 4-2 EDIT コマンドでのアプリケーション・キーパッドの定義






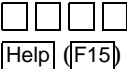


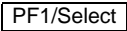
| キーパッド・キー                | キー定義                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>KP0</b>              | EDIT バッファでのフォント編集に使用するために、文字パターンを USE バッファに格納する。EDIT バッファと USE バッファの識別は、文字コード表示領域内のキーワードによって示される。<br>文字コードはプロンプトに回答することによって入力でき、16 進数で指定しなければならない。文字コード指定には、その先頭に "memory" または "database" というキーワードを指定できる。"memory" が指定された場合には、文字パターンは編集中のメモリバッファから取り出され、"database" が指定された場合には、設定されているデータベースから取り出される。<br>これらのキーワードは短縮できる。キーワードを指定しなかった場合には、"database" が指定されているものと解釈される。<br>文字パターンの入力元がメモリであるのか、データベースであるのかは、文字コードと共に示される。メモリの場合は "M" によって示され、データベースの場合は "D" によって示される。<br>EDIT バッファに戻るには、 <b>PF1/KP0</b> を使用する。 |
| <b>KP1</b> ~ <b>KP9</b> | 押されたキーの <b>KP5</b> からの方向にカーソルを移動し、カーソルが通過したピクセルを、カーソル・モードにしたがって ON または OFF 状態に設定する。カーソル・モードには ON, OFF, ON/OFF, および MOVE の 4 つのタイプがあり、これらは <b>PF3</b> によって設定される。<br><b>KP5</b> を押した場合には、カーソルは移動しないが、現在のピクセルの状態が ON と OFF の間で切り換えられる。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <b>PF1</b>              | GOLD 状態を ON と OFF の間で切り換える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <b>PF2</b>              | EDIT コマンドのキーパッド定義に関するヘルプ・テキストを、表示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <b>PF3</b>              | カーソル・モードを ON, OFF, ON/OFF, および MOVE の 4 つの状態の間で切り換える。<br>カーソル・モードが ON/OFF モードの場合には、カーソルが通過したピクセルは、前の状態の反対の状態、つまり ON の場合には OFF に、OFF の場合には ON に設定される。<br>カーソル・モードが MOVE モードの場合には、カーソルはピクセルの状態を変更せずに移動する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

(次ページに続く)

表 4-2 (続き) EDIT コマンドでのアプリケーション・キーパッドの定義








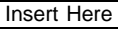





| キーパッド・キー              | キー定義                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [PF4]                 | ペースト・モードを、OVERLAY 状態と OVERWRITE 状態の間で切り換える。ペースト・モードが OVERLAY モードの場合には、[Insert Here] を押したときに PASTE バッファ内のピクセルがビットマップ・スクリーンの上にスーパーインポーズされる。ペースト・モードが OVERWRITE モードの場合には、PASTE バッファ内のピクセルは、ビットマップ・スクリーン上にペーストされ、ピクセルの上に重ね書きされる。                                                                                                                                                                                                                              |
| [KP]                  | 現在編集中的文字パターンを、実際のサイズでスクリーンの左上に表示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| [KP-]                 | タイプフェイスを、ボディーフェイスとレターフェイスの間で切り換える。一般に、ビットマップの外側の部分は、隣接する 2 文字を区別するために、文字パターン内では使用されない。しかし、タイプフェイスに対してボディーフェイスを選択した場合には、パターンの領域全体を編集できる。レターフェイスを選択した場合には、通常のパターン領域を編集できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [KP]                  | ラップ・モードを ON と OFF の間で切り換える。ラップ・モードが ON に設定されている場合には、カーソルが境界に到達すると、カーソルは反対側に移動する。OFF に設定されている場合には、カーソルは境界の上から移動しない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| [Enter]               | 文字パターンを編集する文字コードの入力を要求するプロンプトを表示する。文字コードは 16 進数で入力しなければならない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| [PF1/KP0]             | USE バッファから EDIT バッファに戻る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [PF1/KP1] ~ [PF1/KP9] | 押されたキーの [KP5] からの方向の絶対位置にカーソルを移動する。たとえば、[PF1/KP7] では、カーソルは左上の角に移動し、[PF1/KP5] では、カーソルはビットマップの中心に移動する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| [PF1/PF2]             | EDIT コマンドに関するヘルプ・テキストを表示する。[Help] と同じ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| [PF1/PF3]             | メモリに格納されている編集結果を、新しいプリロード・ファイルに書き込む。フォント編集は継続される。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [PF1/PF4]             | 現在編集中的文字コードの文字パターンを、メモリから削除する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| [PF1/KP.]             | 指定された文字コードの文字パターンを、最大 3 つ表示する。文字パターンは、編集スクリーンの左上の REFER ウィンドウに表示され、REFER ウィンドウの上に文字コードも表示される。<br>文字コードはプロンプトに応答することにより入力でき、16 進数で指定しなければならない。文字コード指定には、その先頭に "memory" または "database" というキーワードを指定できる。"memory" が指定された場合には、文字パターンは編集中的メモリバッファから取り出され、"database" が指定された場合には、設定されているデータベースから取り出される。<br>これらのキーワードは短縮できる。キーワードを指定しなかった場合には、"database" が指定されているものと解釈される。<br>文字パターンの入力元がメモリであるのかデータベースであるのかは、文字コードと共に示され、メモリの場合は、"M" によって、データベースの場合は "D" によって示される。 |
| [PF1/KP-]             | 現在の文字コードに対するフォント編集を取り消す。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| [PF1/KP.]             | フォント編集セッションを終了する。編集セッションを終了するかどうかの確認が要求される。肯定応答を入力した場合には、フォント編集は終了し、フォント編集の結果はすべて失われる。否定応答を入力した場合には、フォント編集は継続される。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| [PF1/Enter]           | 確認プロンプトを表示せずに、フォント編集セッションを終了する。セッションを終了する前に、編集結果は新しいデータ・ファイルに保存される。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

表 4-3 EDIT コマンドの編集キーパッド・キーとファンクション・キーパッド・キーのキー定義

| キーパッド・キー                                                                          | キー定義                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | PASTE バッファの内容を、カーソルによって指定される位置に挿入する。                                                                                 |
|  | SELECT によって選択した領域を切り取り、PASTE バッファに格納する。                                                                              |
|  | 領域指定を開始または取り消す。                                                                                                      |
|  | ビットマップ・スクリーン・サイズを 24 × 24、32 × 32、および 40 × 40 の間で逆方向に切り換える。                                                          |
|  | ビットマップ・スクリーン・サイズを 24 × 24、32 × 32、および 40 × 40 の間で順方向に切り換える。                                                          |
|  | ピクセルの状態を変更せずに、キーパッドに印刷されている方向にカーソルを移動する。                                                                             |
|  | EDIT コマンドに関するヘルプ・テキストを表示する。  と同じ。 |
|  | フォント・サイズを、指定されたサイズから現在のサイズに変換する。ビットマップ・スクリーン全体が、変換後の文字パターンに置き換えられる。                                                  |
|                                                                                   | ビットマップ領域全体を選択する。                                                                                                     |







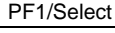

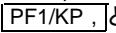




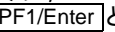
メイン・キーパッド・キー: EDIT コマンドは、表 4-4 に示すように、メイン・キーパッド・キーに対しても機能を定義しています。

表 4-4 EDIT コマンドのメイン・キーパッド・キーのキー定義

| メイン・キー                                                                              | キー定義                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | SELECT によって選択した領域内に、中空の長方形を描く。                                                                                                     |
|  | SELECT によって選択した領域を切り取り、PASTE バッファに格納する。  と同じ。 |
|  | SELECT によって選択した領域内の文字パターンを、ON から OFF へまたは OFF から ON に切り換える。                                                                        |
|  | SELECT の開始位置とカーソルを接続する直線を描く。                                                                                                       |
|  | SELECT によって選択した領域内に、中空の楕円を描く。                                                                                                      |
|  | カーソルによって指定される位置に、PASTE バッファ内の内容を挿入する。  と同じ。   |
|  | SELECT によって選択した領域内に、塗りつぶした楕円を描く。                                                                                                   |
|  | 領域指定を開始または取り消す。  と同じ。                           |
|  | SELECT によって選択した領域内に、塗りつぶした長方形を描く。                                                                                                  |
|  | SELECT によって選択した領域内の文字パターンを、垂直方向の中心線を中心にして対称に並べ替える。                                                                                 |

(次ページに続く)

表 4-4 (続き) EDIT コマンドのメイン・キーパッド・キーのキー定義

| メイン・キー                                                                            | キー定義                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | SELECT によって選択した領域内の文字パターンを、水平方向の中心線を中心にして対称に並べ替える。                                                                                                                                                                           |
|  | SELECT によって選択した正方形領域内の文字パターンを、右上の角と左下の角を結ぶ対角線を中心にして対称に並べ替える。                                                                                                                                                                 |
|  | SELECT によって選択した正方形の領域内の文字パターンを、左上の角と右下の角を結ぶ対角線を中心にして、対称に並べ替える。                                                                                                                                                               |
|  | マークされた位置にカーソルを移動する。                                                                                                                                                                                                          |
|  | 現在のカーソルの位置をマークする。                                                                                                                                                                                                            |
|  | ビットマップ領域全体を選択する。  と同じ。                                                                                                                      |
|  | フォント編集を終了し、Character Manager (CMGR) コマンド・レベルに戻り、"CMGR>"プロンプトを表示するか、または DCL コマンド・レベルに戻る。  と同じ。現在編集集中の文字パターンは失われる。                          |
|  | 現在編集集中の文字パターンを実際のサイズでスクリーンの左上に表示する。  と同じ。                                                                                                 |
|  | ディスプレイを再表示する。                                                                                                                                                                                                                |
|  | フォント編集セッションを正常終了し、Character Manager (CMGR) コマンド・レベルに戻り、"CMGR>"プロンプトを表示するか、または DCL コマンド・レベルに戻る。  と同じ。メモリに格納されている文字パターンは、新しいプリロード・ファイルに出力される。 |

## 例

- ```

$ CHARACTER_MANAGER EDIT/SIZE=24 FONTDATA
%CMGR-I-READFIL, Reading file DISK$:[DIRE]FONTDATA.PRE
%CMGR-I-LOADFONT, Loading DRCS to your terminal, please wait...

```

この例では、EDIT コマンドはフォント編集セッションを起動します。FONTDATA.PRE というプリロード・ファイルは現在のディレクトリに登録されています。オペレータが編集できる文字パターンのサイズは 24 × 24 ドット・サイズのみです。

---

## EXIT

Character Manager の使用を終了します。

---

### 形式

EXIT	
コマンド修飾子	省略時設定
なし	なし

---

### 説明

EXIT コマンドは、Character Manager (CMGR) セッションを終了し、制御を DCL レベルに戻します。EXIT コマンドのかわりに `Ctrl/Z` を押すこともできます。

---

### 例

```
1. CMGR> EXIT
   $
```

EXIT コマンドは、Character Manager (CMGR) セッションを終了します。

---

## EXTRACT CODE

指定された文字コードの、ロード可能な文字パターン・シーケンスを格納したプリロード・ファイルを作成します。

---

### 形式

```
EXTRACT CODE character-code[,...] output-file
```

コマンド修飾子	省略時設定
/ENTRY_LIMIT=number-of-characters	なし
/JIS2	なし
/LOG	/LOG
/SIZE=(font-size[,...])	/SIZE=ALL

---

### パラメータ

*character-code[,...]*

プリロード・ファイルを作成する 1 つ以上の文字コードを 16 進数で指定します。

複数の文字コードを指定する場合には、各文字コードはコンマ (,) で区切ります。コード範囲によって文字コードを指定する場合には、文字コードをハイフン (-) で区切ります。この記号は、コード範囲内に含まれるすべての文字コードのロード可能シーケンスを、ファイルに出力することを示します。

アスタリスク (\*) を単独で使用すれば、対応する文字コード領域内のすべての文字コードを指定できます。

*output-file*

出力ファイルを指定します。ファイル・タイプを省略した場合には、".PRE"が使用されます。

---

### コマンド修飾子

/ENTRY\_LIMIT=number-of-characters

ファイルに出力されるデータの最大数を指定します。

コマンド・パラメータに指定された文字コードの数がこの修飾子に指定された値と同じでない場合には、小さい方の値が使用されます。

フォント RAM に格納できるロード可能シーケンスの数は、漢字ターミナルおよびプリンタのモデルに応じて異なります。各装置のユーザ・マニュアルを参照し、フォント RAM のサイズを確認してください。

/JIS2

JIS X 0208 第 2 水準漢字の文字パターンをフォント ROM に持たないターミナル用に、JIS X 0208 第 2 水準漢字のロード可能シーケンスを含んだプリロード・ファイルを作成するために用います。

この修飾子は、24 × 24 ドットサイズの文字パターンにのみ有効です。

この修飾子を指定しなかった場合、JIS X 0208 第 2 水準漢字のロード可能シーケンスは、プリロード・ファイルに出力できません。

/LOG

/NOLOG

EXTRACT CODE コード・コマンドが、情報メッセージを表示するかどうかを制御します。

省略時の設定では、/LOG が指定されているものと解釈されます。

/SIZE=(font-size[,...])

ロード可能シーケンスを取り出したい文字の、フォント・サイズを選択します。指定できる値は 24、32、および 40 の任意の組み合わせであるか、または ALL キーワードです。フォント・サイズを 1 つだけ指定する場合には、括弧は省略できます。

24、32、および 40 という値はそれぞれ、24 × 24 ドット、32 × 32 ドット、および 40 × 40 ドットのロード可能シーケンスを取り出すことを示します。ALL キーワードは、EXTRACT CODE コマンドが、すべてのフォント・サイズ (24 × 24、32 × 32、および 40 × 40) のロード可能シーケンスを取り出し、それをプリロード・ファイルに出力することを示します。

この修飾子を指定しなかった場合には、/SIZE=ALL が指定されているものと解釈されます。

---

## 説明

EXTRACT CODE コマンドは、指定された文字コードのロード可能な文字パターン・シーケンスをシステム・フォント・データベースから取り出します。



---

**例**

1. \$ CHARACTER\_MANAGER EXTRACT CODE/SIZE=32/FULL A121 PRELOAD\_A121  
%CMGR-I-XTGFONT, Extracting font pattern of size 32x32 from GOTHIC database ...  
%CMGR-I-FONTXTD, Font pattern of size 32x32 for code A121 extracted  
%CMGR-I-TOTFONTXTD, A total of 1 font of size 32x32 extracted to  
DISK\$: [DIRE]PRELOAD\_A121.PRE;1  
\$

この例では、EXTRACT CODE コマンドは、PRELOAD\_A121.PRE というプリロード・ファイルを作成します。プリロード・ファイルには、文字コード A121 の 32 × 32 ドット・サイズの文字パターンが格納されます。データは、現在設定されている GOTHIC というシステム・フォント・データベースから取り出されま

---

## EXTRACT REFERENCE

指定されたテキスト・ファイル内のユーザ定義文字に対して、プリロード・ファイルを作成します。

---

### 形式

EXTRACT REFERENCE *text-file[...]* *preload-file*

コマンド修飾子	省略時設定
/ENTRY_LIMIT=number-of-characters	なし
/JIS2	なし
/LOG	/LOG
/SIZE=(font-size[,...])	/SIZE=ALL

---

### プロンプト

Text file: *text-file[...]*  
Output file: *preload-file*

---

### パラメータ

*text-file[...]*

プリロード・ファイルを作成する、1つ以上のテキスト・ファイルを指定します。複数のテキスト・ファイルを指定する場合には、各ファイル指定をコンマ (,) で区切ります。

入力ファイル指定では、ワイルドカードを使用できます。

*preload-file*

ロード可能文字シーケンスを取り出した後、それを出力するプリロード・ファイルを指定します。

出力ファイル指定では、ワイルドカードは使用できません。

---

### コマンド修飾子

/ENTRY\_LIMIT=number-of-characters

プリロード・ファイルに出力される文字パターンの、ロード可能シーケンスの最大数を指定します。

フォント RAM に格納できるロード可能シーケンスの数は、漢字ターミナルおよびプリンタのモデルに応じて異なります。各装置のユーザ・マニュアルを参照し、フォント RAM のサイズを確認してください。

/JIS2

テキスト・ファイル中にある JIS X 0208 第 2 水準漢字に対しても、その文字パターンのロード可能シーケンスを出力することを指定します。

この修飾子は、24 × 24 ドットサイズの文字パターンにのみ有効です。

この修飾子が指定されなかった場合には、EXTRACT REFERENCE コマンドは、JIS X 0208 第 2 水準漢字に対してのロード可能シーケンスを出力しません。

/LOG

/NOLOG

EXTRACT REFERENCE コマンドが、情報メッセージを表示するかどうかを制御します。

省略時の設定では、/LOG が指定されているものと解釈されます。

/SIZE=(font-size[,...])

文字パターンのロード可能シーケンスを取り出す文字の、フォント・サイズを選択します。指定できる値は 24、32、および 40 の任意の組み合わせであるか、または ALL キーワードです。フォント・サイズを 1 つだけ指定する場合には、括弧は省略できます。

24、32、および 40 という値はそれぞれ、24 × 24 ドット、32 × 32 ドット、および 40 × 40 ドットのロード可能シーケンスを取り出すことを示します。ALL キーワードは、EXTRACT REFERENCE コマンドがすべてのフォント・サイズ (24 × 24、32 × 32、および 40 × 40) のロード可能シーケンスを取り出し、それらをプリロード・ファイルに出力することを指定します。

この修飾子を指定しなかった場合には、/SIZE=ALL が指定されているものと解釈されます。

---

## 説明

EXTRACT REFERENCE コマンドは、指定されたテキスト・ファイルからユーザ定義文字を検索し、検索されたユーザ定義文字の文字パターンのロード可能シーケンスをシステム・フォント・データベースから取り出し、それらを新しく作成されたプリロード・ファイルに出力します。

文字パターンのロード可能シーケンスは、検索された回数の小さい順に格納されます。つまり、検索された回数が最も多いユーザ定義文字のロード可能シーケンスは、プリロード・ファイルの最後に格納されます。

テキスト・ファイル内のユーザ定義文字の文字パターンを、システム・フォント・データベースから検索できない場合には、EXTRACT REFERENCE コマンドは警告メッセージを表示します。

---

## 例

```
1. $ CHARACTER_MANAGER EXTRACT REFERENCE/SIZE=ALL WEEKLY.TXT WKLY.PRE
%CMGR-I-XTGFONT, Extracting font pattern of size 24x24 from CMGR DEFAULT database
%CMGR-I-FONTXTD, Font pattern of size 24x24 for code A77E extracted
%CMGR-I-FONTXTD, Font pattern of size 24x24 for code A221 extracted
%CMGR-I-XTGFONT, Extracting font pattern of size 32x32 from CMGR DEFAULT database
%CMGR-I-FONTXTD, Font pattern of size 32x32 for code A77E extracted
%CMGR-I-FONTXTD, Font pattern of size 32x32 for code A221 extracted
%CMGR-I-XTGFONT, Extracting font pattern of size 40x40 from CMGR DEFAULT database
%CMGR-I-FONTXTD, Font pattern of size 40x40 for code A77E extracted
%CMGR-I-FONTXTD, Font pattern of size 40x40 for code A221 extracted
%CMGR-I-TOTFONTXTD, A total of 2 font of size 24x24 extracted to file
DISK$: [DIRE]WKLY.PRE;1
%CMGR-I-TOTFONTXTD, A total of 2 font of size 32x32 extracted to file
DISK$: [DIRE]WKLY.PRE;1
%CMGR-I-TOTFONTXTD, A total of 2 font of size 40x40 extracted to file
DISK$: [DIRE]WKLY.PRE;1
$
```

この例では、EXTRACT REFERENCE コマンドは WEEKLY.TXT というテキスト・ファイルからユーザ定義文字を検索し、検索したユーザ定義文字に対して WKLY.PRE というプリロード・ファイルを作成します。文字パターンのロード可能シーケンスは、現在参照されている CMGR\_DEFAULT というシステム・フォント・データベースから取り出されます。プリロード・ファイルには、すべてのサイズ (24 × 24, 32 × 32, および 40 × 40 ドット) の、ロード可能文字パターンが格納されます。

---

## HELP

Character Manager (CMGR) のコマンドに関するヘルプ・テキストと、Character Manager (CMGR) に関連するトピックを表示します。

---

### 形式

HELP *[topic]*

コマンド修飾子  
なし

省略時設定  
なし

---

### パラメータ

*[topic]*

Character Manager (CMGR) に関連する項目、または Character Manager (CMGR) コマンドの中から、ヘルプ情報が必要な項目またはコマンドを指定します。HELP コマンドでは、パラメータに修飾子を指定できます。

---

### 説明

HELP コマンドは Character Manager (CMGR) に関する情報を漢字ターミナルに表示します。トピック・パラメータを指定すれば、そのトピックに関するヘルプ・テキストを表示できます。トピック・パラメータを指定しなかった場合には、参照できる情報のリストが表示され、HELP コマンドは、トピックを選択するように要求するプロンプトを表示します。

---

### 例

1. `$ CHARACTER_MANAGER HELP COPY`

この例では、HELP コマンドは COPY コマンドに関するヘルプ・テキストを表示します。

---

# REMOVE

ユーザ定義文字の文字パターンを、システム・フォント・データベースから削除します。

---

## 形式

```
REMOVE character-code[,...]
```

コマンド修飾子	省略時設定
/CONFIRM	/CONFIRM
/LOG	/LOG
/SIZE=(font-size[,...])	/SIZE=ALL

---

## 制限事項

このコマンドを使用するには、SYSPRV 特権が必要です。この特権がない場合には、エラー・メッセージが表示されます。この場合には、REMOVE コマンドは無視され、システム・フォント・データベースは変更されません。

---

## パラメータ

*character-code*[,...]

削除操作の対象となる文字コードを、16 進数で指定します。この文字コードの文字パターンが、システム・フォント・データベースから削除されます。

複数の文字の属性を削除する場合には、各文字コードをコンマ (,) で区切ります。コード範囲によって文字コードを指定する場合には、文字コードをハイフン (-) で区切ります。この記号は、2 つの文字コードによって定義される範囲内のすべての文字コードの属性を削除することを示します。

アスタリスク (\*) を単独で使用すれば、対応する文字コード領域内のすべての文字コードを指定できます。

---

## コマンド修飾子

/CONFIRM  
/NOCONFIRM  
削除操作を確認するかどうかを選択します。

/CONFIRM を指定した場合には、REMOVE コマンドはシステム・フォント・データベースから削除されるすべての文字コードに対して、確認を要求します。

肯定応答は YES, TRUE, および 1 です。否定応答は NO, FALSE, 0 および `[Return]` キーです。QUIT または `[Ctrl/Z]` を入力すると、REMOVE コマンドの処理はその時点で停止されます。ALL と入力すると、REMOVE コマンドの処理は継続され、その後プロンプトは表示されません。

/NOCONFIRM を指定した場合には、REMOVE コマンドは確認プロンプトを表示せずに、文字パターンを削除します。

この修飾子を指定しなかった場合には、/CONFIRM が指定されているものと解釈されます。

/LOG  
/NOLOG

REMOVE コマンドが、削除される各文字コードの文字コード指定を、表示するかどうかを制御します。/LOG 修飾子を使用した場合には、REMOVE コマンドは、削除した文字の総数も表示します。

この修飾子を指定しなかった場合には、/LOG が指定されているものと解釈されます。

/SIZE=(font-size[,...])

REMOVE コマンドによって文字パターンを削除する文字の、フォント・サイズを指定します。

フォント・サイズとして指定できる値は、24, 32, および 40 の任意の組み合わせであるか、または ALL キーワードです。24, 32, および 40 という値はそれぞれ、文字パターンが 24 × 24 ドット, 32 × 32 ドット, および 40 × 40 ドットであることを示します。

この修飾子にフォント・サイズを 1 つだけ指定する場合には、括弧は省略できます。

この修飾子を指定しなかった場合には、/SIZE=ALL が指定されているものと解釈され、すべてのフォント・サイズの文字パターンがシステム・フォント・データベースから削除されます。

---

## 説明

REMOVE コマンドは、文字パターンをシステム・フォント・データベースから削除します。

指定した文字コードの文字パターンが、システム・フォント・データベースに登録されていない場合には、REMOVE コマンドはエラー・メッセージを表示し、システム・フォント・データベースは変更されません。

このコマンドを使用するには、SYSPRV 特権が必要です。

---

## 例

```
1. $ CHARACTER_MANAGER REMOVE /SIZE=(24,32)/FULL A121,A123
   %CMGR-I-RMGFONT, Removing font pattern of size 24x24 from GOTHIC database
   Remove font pattern of size 24x24 for code A121 ? [N]: Y
   %CMGR-I-FONTRMD, Font pattern of size 24x24 for code A121 removed
   Remove font pattern of size 24x24 for code A123 ? [N]: Y
   %CMGR-I-FONTRMD, Font pattern of size 24x24 for code A123 removed
   %CMGR-I-RMGFONT, Removing font pattern of size 32x32 from GOTHIC database
   Remove font pattern of size 32x32 for code A121 ? [N]: Y
   %CMGR-I-FONTRMD, Font pattern of size 32x32 for code A121 removed
   Remove font pattern of size 32x32 for code A123 ? [N]: Y
   %CMGR-I-FONTRMD, Font pattern of size 32x32 for code A123 removed
   $
```

この例では、REMOVE コマンドは2つのユーザ定義文字(16進数でA121とA123)の文字パターンを、GOTHICというシステム・フォント・データベースからそれぞれ削除します。24 × 24 および 32 × 32 ドット・サイズの文字パターンは削除されますが、40 × 40 ドット・サイズの文字パターンはシステム・フォント・データベースにそのまま残されます。



---

## SET DATABASE

指定したデータベースに対するアクセスを設定します。この後実行される Character Manager (CMGR) のコマンドは、このコマンドによって設定されたデータベースを自動的に参照します。

---

### 形式

SET DATABASE *[database-name]*

コマンド修飾子	省略時設定
/DEFAULT	なし
/LOG	/LOG

---

### 制限事項

データベース名パラメータと /DEFAULT 修飾子を、同時に指定することはできません。

---

### パラメータ

*[database-name]*  
アクセスするデータベースの名前を指定します。

---

### コマンド修飾子

/DEFAULT  
プロセス論理名 CMGR\$DATABASE\_NAME の割り当てを解除し、この後実行される Character Manager (CMGR) のコマンドが上位レベルの論理名テーブル内の、CMGR\$DATABASE\_NAME という論理名によって示される省略時のデータベースを、自動的に参照するようにします。

データベース名パラメータを、この修飾子と組み合わせて指定することはできません。

/LOG  
/NOLOG  
SET DATABASE コマンドが、データベース名を表示するかどうかを制御します。

この修飾子を指定しなかった場合には、/LOG が指定されているものと解釈されま  
す。

---

## 説明

SET DATABASE コマンドを使用すれば、指定したデータベースをアクセスできるようになります。この後実行される Character Manager (CMGR) のコマンドは、指定されたデータベースを自動的に参照します。

設定されているデータベース名は、SHOW DATABASE コマンドを使用して確認できます。

---

## 例

1. \$ CHARACTER\_MANAGER SET DATABASE GOTHIC  
%CMGR-I-DBSET, Database set to GOTHIC  
\$

この例では、SET DATABASE コマンドは、現在のデータベースとして、GOTHIC データベースを設定し、この後実行される Character Manager (CMGR) のコマンドによって、このデータベースがアクセスされるようにします。

2. \$ CHARACTER\_MANAGER SET DATABASE/DEFAULT  
%CMGR-I-DBSET, Database set to CMGR\_DEFAULT  
\$

この例では、SET DATABASE コマンドは、CMGR\_DEFAULT データベースがこの後実行される Character Manager (CMGR) のコマンドによって、アクセスされるように設定します。

---

## SHOW BITMAP

ユーザ定義文字の文字パターンを表示します。文字パターンはシステム・フォント・データベースまたはプリロード・ファイルから取り出され、ビットマップ形式で表示されます。

---

### 形式

SHOW BITMAP *character-code*[,...]

コマンド修飾子	省略時設定
/BACKGROUND	/BACKGROUND
/OUTPUT=output-file	/OUTPUT=SYS\$OUTPUT
/SIZE=(font-size[,...])	/SIZE=ALL
/SYSTEM	/SYSTEM
/USER=input-file	なし
/WIDTH=display-width	/WIDTH=132

---

### パラメータ

*character-code*[,...]

文字パターンを表示したい、1つ以上の文字コードを16進数で指定します。

1つ以上の文字コードの文字パターンを表示する場合には、各文字コードをコンマ (,) で区切ります。コード範囲によって文字コードを指定する場合には、2つの文字コードをハイフン (-) で区切ります。この記号は、2つの文字コードの間に含まれるすべての文字パターンが表示されることを示します。

アスタリスク (\*) を単独で使用すれば、すべてのユーザ定義文字コードを指定できます。

---

### コマンド修飾子

/BACKGROUND  
/NOBACKGROUND

ビットマップ形式で表示される文字パターンの、背景を指定します。

/NOBACKGROUND 修飾子を指定した場合には、文字パターンのビットマップはアットマーク (@) によって表示され、背景には何も表示されません。/BACKGROUND 修飾子を使用した場合には、ビットマップの背景はピリオド (.) で塗りつぶされます。

省略時の設定では、/BACKGROUND が指定されているものと解釈されます。

/OUTPUT=output-file

SHOW BITMAP コマンドが、ビットマップ表示をデータ・ファイルに出力するかどうかを制御します。/OUTPUT 修飾子にファイル名を指定した場合には、SHOW BITMAP コマンドはそのファイルを作成し、文字パターンをそのファイルに出力します。

省略時の設定では、SHOW BITMAP コマンドは、文字パターンを、論理名 SYS\$OUTPUT として定義されている装置に出力します。

/SIZE=(font-size[,...])

文字パターンを表示する文字のフォント・サイズを指定します。

フォント・サイズとして指定できる値は 24, 32, および 40 の任意の組み合わせであるか、または ALL キーワードです。/SIZE=ALL は、/SIZE=(24, 32, 40) と指定するのと同じです。24, 32, および 40 という値はそれぞれ、文字パターンが 24 × 24 ドット, 32 × 32 ドット, および 40 × 40 ドットで構成されることを示します。

/SIZE 修飾子に複数のフォント・サイズを指定した場合には、文字パターンは文字コードの順ではなく、フォント・サイズの順に表示されます。つまり、1 つのフォント・サイズのすべての出力が終了した後、別のフォント・サイズの出力が開始されます。

この修飾子を指定しなかった場合には、/SIZE=ALL が指定されているものと解釈され、すべてのフォント・サイズの文字パターンがビットマップ形式で表示されます。

/SYSTEM

SHOW BITMAP コマンドが、システム・フォント・データベースを取り扱うことを指定します。

/SYSTEM 修飾子と /USER 修飾子を、同時に指定することはできません。/SYSTEM 修飾子と /USER 修飾子をどちらも指定しなかった場合には、SHOW BITMAP コマンドは /SYSTEM 修飾子が指定されているものと解釈します。

/USER=input-file

SHOW BITMAP コマンドがユーザ・ファイル、つまり、プリロード・ファイルを取り扱うことを指定します。この修飾子には入力ファイルを指定しなければなりません。

ファイル指定ではワイルドカードを使用できます。ファイル・タイプを省略した場合には、".PRE"が使用されます。

/SYSTEM 修飾子と /USER 修飾子を同時に指定することはできません。/SYSTEM 修飾子と /USER 修飾子をどちらも指定しなかった場合には、SHOW BITMAP コマンドは /SYSTEM 修飾子が指定されているものと解釈します。

`/WIDTH=display-width`

このコマンドの出力の幅を指定します。表示幅に対して指定できる値は、80 と 132 のいずれかです。

省略時の設定では、`/WIDTH=132` が指定されているものと解釈されます。

---

### 説明

SHOW BITMAP コマンドは、文字パターンをビットマップ形式で表示します。

`/USER` 修飾子を入力ファイル名と組み合わせて指定した場合には、SHOW BITMAP コマンドは文字パターンを指定されたプリロード・ファイルから取り出します。この場合、複数の文字コード・パラメータを指定すると、文字パターンは、対応するデータ・ファイルに格納されている順に表示されます。

`/SYSTEM` 修飾子を指定した場合には、SHOW BITMAP コマンドは文字パターンをシステム・フォント・データベースから取り出します。この場合、複数の文字コード・パラメータを指定した場合には、文字パターンは、文字コードをコマンド行に指定した順に表示されます。

`/SIZE` 修飾子に複数のフォント・サイズを指定した場合には、ビットマップ・パターンはフォント・サイズの順に表示されます。つまり、1つのフォント・サイズのすべてのビットマップ・パターンを表示した後、別のフォント・サイズのビットマップ・パターンが表示されます。

---

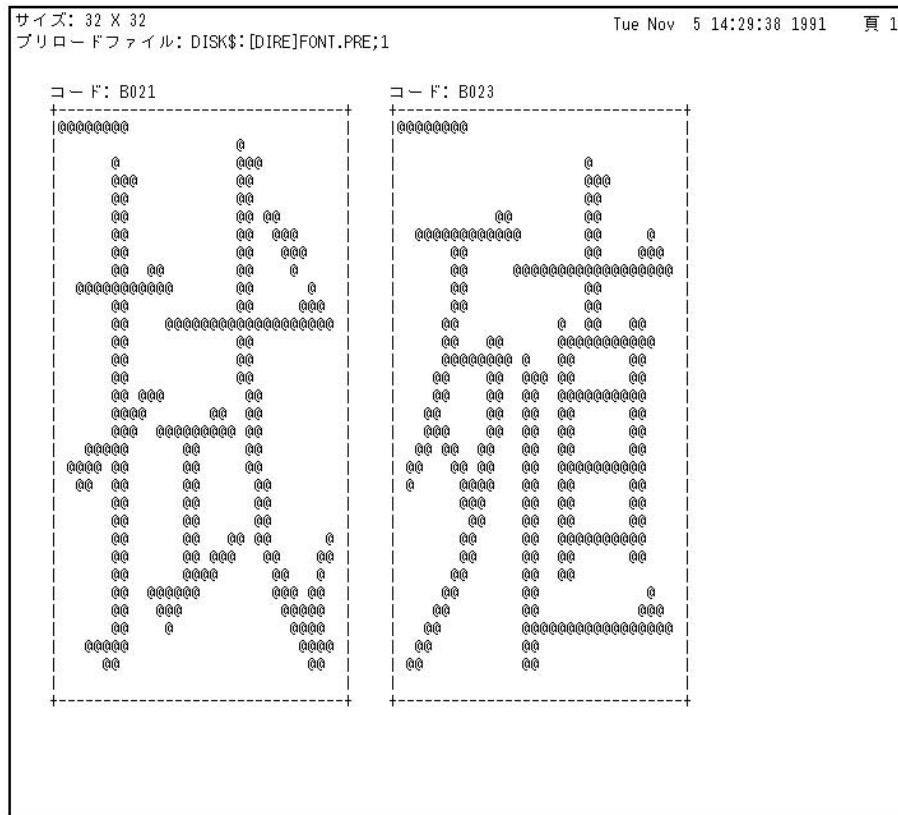
### 例

1. `$ CHARACTER_MANAGER SHOW BITMAP/SIZE=32/NOBACKGROUND/USER=[DIRE]FONT B021,B023 %CMGR-I-READFIL, ファイル DISK$: [DIRE] FONT.PRE;1` を読み込みます。

この例では、SHOW BITMAP コマンドは、文字コードが 16 進数の B021、B023 であるユーザ定義文字の文字パターンを、ビットマップ形式で表示します。文字パターンは [DIRE] ディレクトリ内の FONT.PRE というプリロード・ファイルから取り出され、そのフォント・サイズは 32 × 32 ドットです。

図 4-3 は上記のコマンドの結果を示しています。

図 4-3 例 1 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン



## 2. \$ CHARACTER\_MANAGER SHOW BITMAP/SIZE=ALL/NOBACKGROUND/SYSTEM A371

この例では、SHOW BITMAP コマンドは、文字コードが 16 進数の A371 である文字の文字パターンを、ビットマップ形式で表示します。文字パターンはシステム・フォント・データベースから取り出され、フォント・サイズは 24 × 24、32 × 32、および 40 × 40 ドットです。

図 4-4、図 4-5、図 4-6 は上記のコマンドの結果を示しています。

# SHOW BITMAP

図 4-4 例 2 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン (24 × 24)

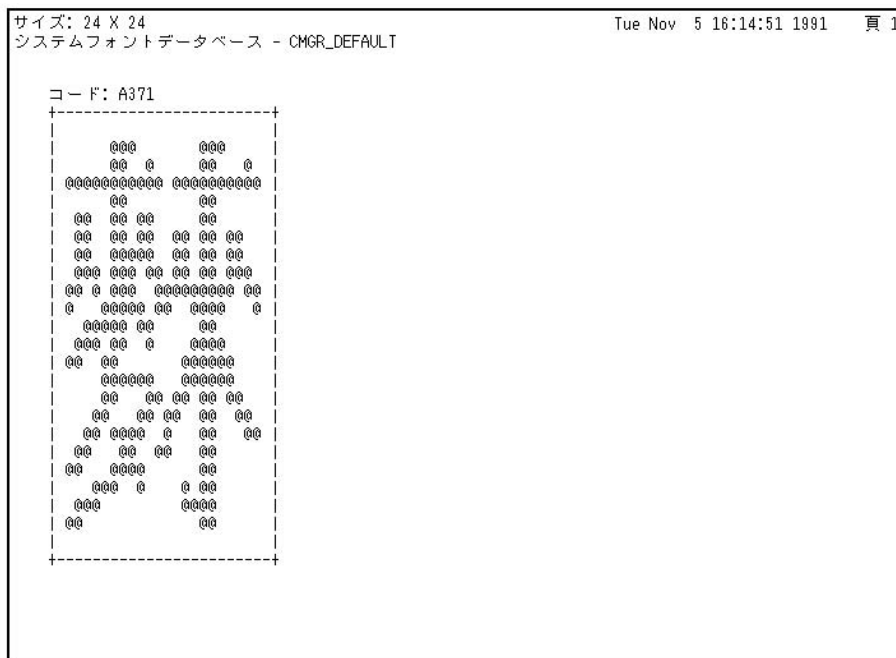


図 4-5 例 2 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン — (32 × 32)

サイズ: 32 X 32  
システムフォントデータベース - CMGR\_DEFAULT

Tue Nov 5 16:14:52 1991 頁 2

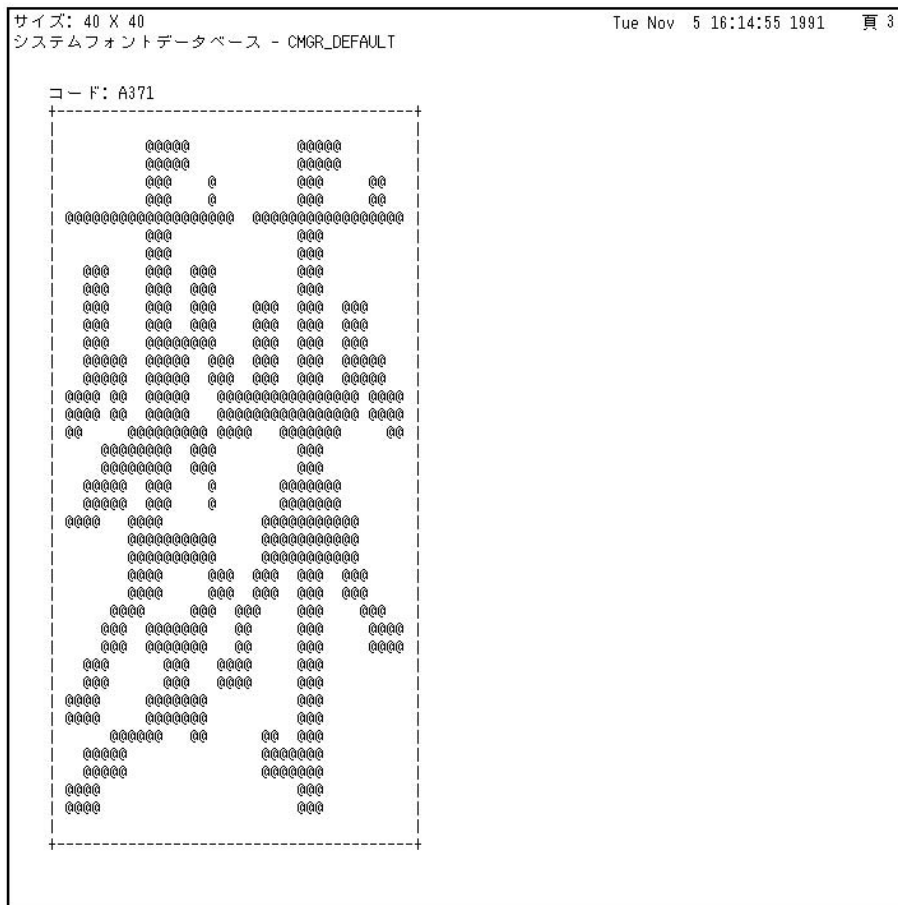
コード: A371

```
      0000      0000
      0000      0000
      000 00    000 0
00000000000000 000000000000
      000      000
      000      000
00  000 000    000
00  000 000  000 000 000
00  0000000  000 000 000
00  0000000  000 000 000
0000 0000 000 000 000 0000
000 00 0000  00000000000 000
00  000000  00  00000  00
00  000000  00  00000  00
0000000 000  000
0000 000 00  00000
0000 00  0000000
      0000000  0000000
00  000 000 000 000
000  000 000 000 00
000 00000 0  000 000
00  0000 00  000
000 00000  000
000 00000  000
0000 0  0 000
0000      0000
000      000
000      000
```



SHOW BITMAP

図 4-6 例 2 のコマンドによって表示されたビットマップ形式の文字パターン (40 × 40)



---

# SHOW CHARACTER\_SET

現在参照されているデータベースの、コードセット情報を表示します。

---

## 形式

SHOW CHARACTER\_SET

コマンド修飾子

なし

省略時設定

なし

---

## 説明

SHOW CHARACTER\_SET コマンドは、現在参照されているデータベースのコードセット情報を表示します。このコマンドを使用すれば、参照されているデータベースに格納されている標準文字、DEC 予約文字、およびユーザ定義文字の文字コード範囲を確認できます。

---

## 例

1. \$ CHARACTER\_MANAGER SHOW CHARACTER\_SET

DEC Kanji Character Set

Code range	Quadrant	Section range	Character class
A1A1 - A8FE	LR	1 - 8	JIS Character
A9A1 - AFFE	LR	9 - 15	JIS Reserved Character
B0A1 - CFFE	LR	16 - 47	JIS Character
D0A1 - F4FE	LR	48 - 84	JIS-2 Character
F5A1 - FEFE	LR	85 - 94	JIS Reserved Character
A121 - BF7E	LL	1 - 31	User-Defined Character
C021 - FE7E	LL	32 - 94	DEC Reserved User-Defined Character

\$

この例では、SHOW CHARACTER\_SET コマンドは、現在参照されているデータベースのコードセット情報、つまり、DEC 漢字コードセットの情報を表示します。

---

## SHOW DATABASE

現在参照されているデータベース，または現在使用可能なデータベースの名前を表示します。

---

### 形式

SHOW DATABASE

コマンド修飾子

/ALL

省略時設定

なし

---

### コマンド修飾子

/ALL

SHOW DATABASE コマンドが，使用可能なデータベースのリストを表示することを指定します。現在参照されているデータベースには，先頭に "->"が表示されます。

---

### 説明

SHOW DATABASE コマンドは，現在参照されているデータベースまたはフォント・システムで参照可能なデータベースの名前を表示します。

/ALL 修飾子を指定した場合には，SHOW DATABASE コマンドは，その時点で参照できるデータベースのリストを表示します。/ALL 修飾子を指定しなかった場合には，SHOW DATABASE コマンドは現在参照されているデータベースを表示します。

---

### 例

```
1. $ CHARACTER_MANAGER SHOW DATABASE
   %CMGR-I-DATABASE, Database is GOTHIC
   $
```

この例では，SHOW DATABASE コマンドは現在参照されているデータベースを表示します。この例では，ユーザはGOTHIC データベースを参照しています。

## 2. \$ CHARACTER\_MANAGER SHOW DATABASE/ALL

```
Database Name
-----
CMGR_DEFAULT
->GOTHIC
```

\$

この例では、SHOW DATABASE コマンドは、フォント・システムで使用できるデータベースの名前を表示します。この例では、ユーザは GOTHIC データベースを参照しています。

---

# SHOW TABLE

文字コード・テーブルを表示します。

---

## 形式

SHOW TABLE [*section-number*[,...]]

コマンド修飾子	省略時設定
/OUTPUT=output-file	/OUTPUT=SYS\$OUTPUT
/SIZE=(font-size[,...])	/SIZE=ALL
/SYSTEM	/SYSTEM
/USER=input-file	なし
位置修飾子	省略時設定
/QUADRANT=quadrant	/QUADRANT=LL

---

## パラメータ

[*section-number*[,...]]

文字コード・テーブルの中で表示したい、1つ以上の区番号を指定します。区番号は1～94の範囲です。

文字コード・テーブルの中で、複数の区番号を表示する場合には、各区番号をコンマ(,)で区切ります。区を範囲によって指定する場合には、2つの区番号をハイフン(-)で区切ります。この記号は、2つの区番号の間に含まれる、すべての文字コードのリストを作成することを示します。この場合、最初の区番号は、2番目の区番号より小さい値でなければなりません。

アスタリスク(\*)を単独で使用すれば、対応する象限内のすべての区番号を指定できます。

---

## コマンド修飾子

/OUTPUT=output-file

SHOW TABLE コマンドが、指定されたデータ・ファイルに文字コード・テーブルを出力するかどうかを制御します。/OUTPUT 修飾子にファイル名を指定した場合には、SHOW TABLE コマンドはそのファイルを作成し、文字コード・テーブルをそのファイルに出力します。

省略時の設定では、SHOW TABLE コマンドは論理名 SYS\$OUTPUT として定義されている装置に、文字コード・テーブルを出力します。

`/SIZE=(font-size[,...])`

文字コード・テーブルを表示する対象となるフォント・サイズを指定します。

フォント・サイズとして指定できる値は、24、32、および40の任意の組み合わせであるか、またはALLキーワードです。`/SIZE=ALL`は`/SIZE=(24, 32, 40)`と指定するのと同じです。24、32、および40という値はそれぞれ、文字パターンが24 × 24 ドット、32 × 32 ドット、および40 × 40 ドットで構成されることを示します。

この修飾子を指定しなかった場合には、`/SIZE=ALL`が指定されているものと解釈され、すべてのフォント・サイズの情報が表示されます。

`/SYSTEM`

SHOW TABLE コマンドがシステム・フォント・データベースについて、文字コード・テーブルを作成することを指定します。

`/SYSTEM` 修飾子と `/USER` 修飾子を、同時に指定することはできません。`/SYSTEM` 修飾子と `/USER` 修飾子をどちらも指定しなかった場合には、SHOW TABLE コマンドは `/SYSTEM` 修飾子が指定されているものと解釈します。

`/USER=input-file`

SHOW TABLE コマンドがユーザ・ファイル、つまり、プリロード・ファイルについて文字コード・テーブルを作成することを指定します。この修飾子には、入力ファイルを指定しなければなりません。

ファイル指定では、ワイルドカードを使用できます。ファイル・タイプを省略した場合には、`".PRE"`が使われます。

`/SYSTEM` 修飾子と `/USER` 修飾子を、同時に指定することはできません。`/SYSTEM` 修飾子と `/USER` 修飾子をどちらも指定しなかった場合には、SHOW TABLE コマンドは、`/SYSTEM` 修飾子が指定されているものと解釈します。

## 位置修飾子

`/QUADRANT=quadrant`

指定した区番号が含まれる、2 バイト文字平面上での象限を指定します。

キーワードとしてLL、LOWER\_LEFT、LR、LOWER\_RIGHTのいずれかを指定できます。LL キーワードとLOWER\_LEFT キーワード、およびLR キーワードとLOWER\_RIGHT キーワードはそれぞれ同じです。LL キーワードは2 バイト文字平面上での左下の象限を示し、LR キーワードは右下の象限を示します。

`/USER` 修飾子と同時に指定することはできません。

省略時の設定では、`/QUADRANT=LL`が指定されているものと解釈されます。

---

## 説明

SHOW TABLE コマンドは、システム・データベースに格納されている文字コードのテーブル、またはユーザのデータ・ファイルに登録されている、文字コードのテーブルを表示します。/USER 修飾子を指定した場合には、区番号のパラメータを指定できません。

/USER 修飾子に入力ファイル指定した場合には、SHOW TABLE コマンドは、文字コード・テーブルを作成するためにプリロード・ファイルを読み込みます。この場合、出力される文字コード・テーブルには、プリロード・ファイル内のすべての文字コードが表示されます。/SYSTEM 修飾子を指定した場合には、SHOW TABLE コマンドは、文字コード・テーブルを作成するために、システム・フォント・データベースを読み込みます。この場合、指定された区内のすべての文字コードが、出力で使用されます。

/SYSTEM を指定した場合には、文字コード・テーブルはパラメータに指定された区番号によって作成されます。つまり、指定された区内のすべての文字コードが、出力で使用されます。/USER を指定した場合には、ユーザ・ファイルに対して作成される文字コード・テーブルは、区番号によってではなく、文字コード自体によって左右されます。つまり、ある文字コードの文字パターンを、ユーザのデータ・ファイルから検索できない場合には、その文字コードのエントリは、文字コード・テーブルに含まれません。

SHOW TABLE コマンドは、文字コード・テーブル内の文字コードだけを使用します。したがって、テーブル内のユーザ定義文字の文字パターンは、システム・フォント・データベースまたはプリロード・ファイル内の文字パターンを、必ずしも反映するわけではありません。文字パターンが、すでに出力装置のフォント RAM に格納されている場合には、フォント RAM 内のパターンが文字コード・テーブルで使用されます。システム・フォント・データベースまたは指定したプリロード・ファイル内の文字パターンを、必ず表示したい場合には、その前にフォント RAM に格納されている文字パターンを、更新するかまたはリセットしなければなりません。

---

## 例

1. `§ CHARACTER_MANAGER SHOW TABLE/SIZE=(24,40)/SYSTEM 1`

この例では、SHOW TABLE コマンドは、システム・フォント・データベース内の象限 LL の第 1 区に登録されている、24 × 24 ドットと 40 × 40 ドットのフォント・サイズの文字コード・テーブルを作成します。

図 4-7、図 4-8 は、上記のコマンドで作成された文字コード・テーブルの例を示しています。登録されていないユーザ定義文字に対しては、何も表示されません。

図 4-7 例 1 のコマンドで作成された文字コード・テーブル(その 1)

システムフォントデータベース - CMGR_DEFAULT		Mon Sep 9 17:05:04 1991														
ユーザ定義領域		A121 - A17E														
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           Quadrant: LL            Section: 1            Size: 24 X 24         </div>																
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
A12		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
A13	□	□	□	□	□	□	□	□	□		□					
	16	17	18	19	20	21	22	23	24		26					
A14	□	□	□													
	32	33	34													
A15	□	□	□	□	□											
	48	49	50	51	52											
A16	□	□	□	□	□											
	64	65	66	67	68											
A17	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	

図 4-8 例 1 のコマンドで作成された文字コード・テーブル(その 2)

システムフォントデータベース - CMGR_DEFAULT		Mon Sep 9 17:05:04 1991														
ユーザ定義領域		A121 - A17E														
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           Quadrant: LL            Section: 1            Size: 40 X 40         </div>																
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
A12		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
A13	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
A14	□	□	□			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	32	33	34			37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
A15	□	□	□	□	□					□	□	□	□	□	□	□
	48	49	50	51	52					57	58	59	60	61	62	63
A16	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
A17	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	



## SHOW TABLE

2. \$ CHARACTER\_MANAGER SHOW TABLE/USER=[DIRE]FONT

%CMGR-I-READFIL,ファイル DISK\$: [DIRE]FONT.PRE;1 を読み込みます。

この例では、SHOW TABLE コマンドは、[DIRE]FONT.PRE のすべての文字コードに対して文字コード・テーブルを作成します。

図 4-9 は、上記のコマンドの結果を示しています。テーブル内のハイフンは、対応する属性が、プリロード・ファイルに格納されていないことを示しています。

図 4-9 例 2 のコマンドによって作成された文字コード・テーブル

		Tue Sep 10 11:18:00 1991			頁 1
		プリロードファイル: DISK\$: [DIRE]FONT.PRE;1			
コード	字形	24x24	サイズ 32x32	40x40	
A121	□	o	o	o	
A122	□	o	o	o	
A371	□	o	o	o	
B021	□	-	o	o	
B022	□	-	o	o	
B023	□	-	o	o	

---

# SHOW VERSION

Character Manager (CMGR) のソフトウェア・バージョンを表示します。

---

## 形式

SHOW VERSION

コマンド修飾子  
なし

省略時設定  
なし

---

## 説明

SHOW VERSION コマンドは、現在使用している Character Manager (CMGR) のバージョンを表示します。

---

## 例

```
1. $ CHARACTER_MANAGER SHOW VERSION
   %CMGR-I-VERSION, CMGR Version V2.0
   $
```

この例では、SHOW VERSION コマンドは、Character Manager (CMGR) ソフトウェアのバージョン 2.0 を現在使用していることを示します。

---

# UPDATE

プリロード・ファイルから、文字パターンをシステム・データベースに登録します。

---

## 形式

UPDATE *input-file[,...]*

コマンド修飾子	省略時設定
/CONFIRM[=condition]	/CONFIRM=ALL
/LOG	/LOG
/SIZE=(font-size[,...])	/SIZE=ALL

---

## 制限事項

このコマンドを使用するには、SYSPRV 特権が必要です。この特権がない場合には、エラー・メッセージが表示され、UPDATE コマンドは無視されます。

---

## パラメータ

*input-file[,...]*

UPDATE コマンドがシステム・データベース内のレコードを更新するために使用するデータ・ファイルを指定します。

入力ファイル指定では、ワイルドカードを使用できます。ファイル・タイプを指定しなかった場合には、".PRE"が使用されます。

---

## コマンド修飾子

/CONFIRM[=condition]

/NOCONFIRM

特定の状況のもとで登録操作を確認するかどうかを選択します。指定できるキーワードは ALL と CONFLICT です。

肯定応答は YES, TRUE, および 1 です。否定応答は NO, FALSE, 0 および **[Return]** キーです。QUIT または **[Ctrl/Z]** を入力すると、UPDATE コマンドの処理はその時点で停止されます。ALL と入力すると、UPDATE コマンドの処理は継続され、その後、プロンプトは表示されません。

CONFLICT キーワードは、文字コードの文字パターンが、システム・フォント・データベースにすでに登録されている場合にだけ、確認を要求することを示します。ALL キーワードを指定した場合には、UPDATE コマンドは、プリロード・ファイルから登録されるすべての文字コードに対して確認を要求します。

/CONFIRM 修飾子を指定しなかった場合や、この修飾子にキーワードを指定しなかった場合には、/CONFIRM=ALL が指定されているものと解釈されます。

/LOG  
/NOLOG

UPDATE コマンドが登録される各文字の文字コード指定を、表示するかどうかを制御します。/LOG 修飾子を指定した場合には、UPDATE コマンドは登録した文字の総数も表示します。

省略時の設定では、/LOG 修飾子が指定されているものと解釈されます。

/SIZE=(font-size[,...])

UPDATE コマンドがシステム・フォント・データベースに登録するフォント・サイズを指定します。

フォント・サイズとして指定できる値は、24、32、および40の任意の組み合わせであるか、またはALL キーワードです。/SIZE=ALL は /SIZE=(24, 32, 40) と指定するのと同じです。

/SIZE 修飾子にフォント・サイズを1つだけ指定した場合には、指定したフォント・サイズの文字パターンだけがプリロード・ファイルからシステム・フォント・データベースに登録されます。この場合、他のフォント・サイズの文字パターンは、それがプリロード・ファイルに格納されている場合でも登録されません。

この修飾子を指定しなかった場合には、/SIZE=ALL が指定されているものと解釈され、プリロード・ファイルに格納されているすべての文字パターンが登録されます。

---

## 説明

UPDATE コマンドは、プリロード・ファイルから文字パターンをシステム・フォント・データベースに登録します。

---

## 例

1.

## UPDATE

```
$ CHARACTER_MANAGER UPDATE/CONFIRM=ALL/FULL PRELOAD
CMGR-I-UPGFONT, Updating font pattern of GOTHIC database from file
                                DISK$: [DIRE]PRELOAD.PRE ...
%CMGR-I-FONTEXIST, Font pattern of size 24x24 for code A124 already exist
Update font pattern of size 24x24 for code A124 ? [N]: N
%CMGR-I-FONTEXIST, Font pattern of size 32x32 for code A124 already exist
Update font pattern of size 32x32 for code A124 ? [N]: N
%CMGR-I-FONTEXIST, Font pattern of size 40x40 for code A124 already exist
Update font pattern of size 40x40 for code A124 ? [N]: N
Update font pattern of size 24x24 for code A125 ? [N]: Y
%CMGR-I-FONTUPD, Font pattern of size 24x24 for code A125 updated
Update font pattern of size 32x32 for code A125 ? [N]: Y
%CMGR-I-FONTUPD, Font pattern of size 32x32 for code A125 updated
Update font pattern of size 40x40 for code A125 ? [N]: Y
%CMGR-I-FONTUPD, Font pattern of size 40x40 for code A125 updated
%CMGR-I-DBUPD, GOTHIC System Database Updated
$
```

この例では、UPDATE コマンドは、PRELOAD.PRE というプリロード・ファイル内のすべてのロード可能な文字パターン・シーケンスを読み込み、それをGOTHIC というシステム・フォント・データベースに登録します。処理されるすべての文字コードに対して、確認が要求されます。

---

## 4.5 JIS X 0208-1983 第2水準漢字文字セット

初期型の VT280 シリーズ漢字ディスプレイ・ターミナルには、JIS X 0208-1983 第2水準漢字に対するフォント ROM が装備されていません。この漢字ターミナルをサポートするために、EXTRACT CODE コマンドと EXTRACT REFERENCE コマンドで、/JIS2 修飾子が提供されています。この修飾子を使用すれば、JIS X 0208-1983 第2水準漢字文字のロード可能シーケンスを取り扱うことができます。

---

## 4.6 複数のデータベース

Character Manager (CMGR) のバージョン 2.0 では、2つのデータベースが提供されます。これらのデータベースの名前は CMGR\_DEFAULT と GOTHIC です。CMGR\_DEFAULT データベースは、CMGR\$DATABASE\_NAME という論理名が定義されていない時に、省略時のデータベースとして使用されます。

---

## 4.7 制限事項

以下のような場合には、Character Manager (CMGR) の動作は保証されません。

- 先頭に CMGR\$ という接頭語が付いている論理名を CMGR の外部で定義した場合。

この接頭語は CMGR 専用に確保されており、ユーザは論理名でこれらの接頭語を使用してはいけません。

- CMGR によって提供されるデータ・ファイルが CMGR の外部で変更された場合。

一部のデータ・ファイルは通常のテキスト・ファイルですが、これらのファイルをユーザが変更してはいけません。

また、CMGR は、Super DEC 漢字文字セットには対応していません。従来の DEC 漢字文字セットのみサポートしています。

---

## KANJIGEN ユーティリティ

この章では、KANJIGEN ユーティリティについて説明します。

---

### 5.1 概要

KANJIGEN は漢字ターミナルの種類や属性の設定および表示、プリローディングの要求を行うユーティリティです。ターミナル種別の設定および表示は DCL コマンドの SET/SHOW TERMINAL に相当するものですが、KANJIGEN ユーティリティは、漢字ターミナルに関連した項目のみを扱います。

---

### 5.2 起動方法

次のコマンドを使用して起動します。

```
$ RUN JSY$SYSTEM:KANJIGEN
KANJIGEN> [KANJIGEN コマンド]
```

フォーリン・コマンドによる起動もできます。

```
$ KANJI*GEN := $JSY$SYSTEM:KANJIGEN
$ KANJIGEN [KANJIGEN コマンド]
```

---

### 5.3 KANJIGEN コマンド

この節では、KANJIGEN コマンドについて説明します。

表 5-1 に KANJIGEN コマンドの一覧を示します。

表 5-1 KANJIGEN コマンド一覧

コマンド	説明
EXIT	KANJIGEN を終了し、DCL コマンド・レベルにもどります。
HELP	KANJIGEN コマンドの HELP を表示します。

(次ページに続く)

表 5-1 (続き) KANJIGEN コマンド一覧

コマンド	説明
SET	漢字ターミナルの種類, 属性の設定, オンデマンド・ローディングの要求を行います。
SHOW	指定した漢字ターミナル, またはオンデマンド・ローディング中のすべての漢字ターミナルの種類, 属性を表示します。

次に, 各コマンドについて詳しく説明します。



---

## EXIT

KANJIGEN を終了します。

---

### 形式

EXIT

コマンド修飾子

なし

省略時設定

なし

---

### 説明

EXIT コマンドは、KANJIGEN ユーティリティを終了し、制御を DCL レベルに戻します。EXIT コマンドのかわりに `Ctrl/Z` を押すこともできます。

---

### 例

1. KANJIGEN> EXIT

EXIT コマンドは、KANJIGEN ユーティリティを終了します。

---

## HELP

KANJIGEN のコマンドに関するヘルプ・テキストを表示します。

---

### 形式

HELP *[topic]*

コマンド修飾子  
なし

省略時設定  
なし

---

### パラメータ

*[topic]*

KANJIGEN コマンドの中から，ヘルプ情報が必要なコマンドを指定します。HELP コマンドでは，パラメータに修飾子を指定できます。

---

### 説明

HELP コマンドは KANJIGEN コマンドに関する情報を漢字ターミナルに表示します。トピック・パラメータを指定すれば，そのトピックに関するヘルプ・テキストを表示できます。トピック・パラメータを指定しなかった場合には，参照できる情報リストが表示され，HELP コマンドは，トピックを選択するように要求するプロンプトを表示します。

---

### 例

```
KANJIGEN> HELP SET/FONT
```

この例は，SET という KANJIGEN コマンドの/FONT 修飾子についての情報を表示します。

---

# SET

漢字ターミナルまたはプリンタの種類や属性の設定，プリローディングの要求を行います。

---

## 形式

SET *[device-name]*

コマンド修飾子	省略時設定
/DEVICE_TYPE=device-type	/DEVICE_TYPE=ORIGINAL
/EDIT=state	/EDIT=DISABLE
/FONT=ODL-type	/NOFONT
/INPUT=input-code	/INPUT=KANJI
/KCODE_TYPE=kanji-code-type	/KCODE_TYPE=DEC83
/OUTPUT=output-code	/OUTPUT=KANJI
/PRELOAD=(START:n, END:n)	/PRELOAD=(START:1, END:1)
/PERMANENT	/PERMANENT
/SYSTEM	/SYSTEM

---

## 制限事項

次の制限事項があります。

### 1. 仮想ターミナルの使用について

仮想ターミナル (Virtual terminal: VTAxx など) で漢字を使用する場合には，以下の注意が必要です。

- KANJIGEN でオンデマンド・ローディングを有効にしている物理ターミナルに，仮想ターミナルを接続した場合は，仮想ターミナルが新規に作成される場合も含めて，オンデマンド・ローディングは行われます。ただし例外として，仮想ターミナルの設定がオンデマンド・ローディング無効かつ OUTPUT=KANJI になっていた場合は，オンデマンド・ローディングは行われません。
- KANJIGEN でオンデマンド・ローディングを有効にしていない物理ターミナルに，仮想ターミナルを接続した場合 (1 の場合の逆)，オンデマンド・ローディングは行われません。
- 設定可能な仮想ターミナルは，自分の漢字ターミナルおよび接続されている漢字ターミナルのみです。

### 2. リモート・ログインでの制限

- リモート・ノードでの設定はローカル・ノードへ反映されません。

- リモート・ノードでは、/FONT、/KCODE\_TYPE 修飾子によるターミナルの設定はできません。ただし、/INPUT、/OUTPUT 修飾子による設定はできません。
- リモート・ログインの環境で、オンデマンド・ローディングを行う場合は、ローカル・ノードで/FONTによる設定を行なってから SET HOST してください。
- DECnet 接続によるリモート・ノードでは、/EDIT 修飾子によるターミナルの設定はできません。Telnet 接続の場合は可能です。

---

## パラメータ

[device-name]

設定する漢字ターミナルまたはプリンタの装置名を指定します。装置名は論理名でもかまいません。省略時は論理名 "TT" がとられるので、指定のない場合にはログインした漢字ターミナルに対して設定します。

使用されていない他の装置を設定する場合は、/PERMANENT の指定が必要です。すでに他のプロセスによって占有されている装置に対しては、設定できません。

---

## コマンド修飾子

/DEVICE\_TYPE=device-type

装置の種類を設定します。設定できる種類は LA84、VT80、VT200\_Series、VT300\_Series、FOREIGN です。FOREIGN と指定した場合は、SHOW コマンドで表示される DEVICE TYPE (装置の種類) は Unknown となります。装置の種類を変更したくない場合は ORIGINAL を指定します (省略時は ORIGINAL です)。

- LA86、LA88、LA90、LA280、LA380 プリンタ：  
/DEVICE\_TYPE=LA84 と設定してください。
- VT280 シリーズの漢字ターミナル：  
/DEVICE\_TYPE=VT200\_Series と設定してください。
- VT382 ターミナル：  
/DEVICE\_TYPE=VT300\_Series と設定してください。
- 漢字ターミナルを VT100 として使用する場合：  
/DEVICE\_TYPE=VT80 と設定してください。

`/EDIT=state`

コマンド行での文字単位の編集機能を使用するかどうかを指定します。設定できる状態は、ENABLE または DISABLE です。ENABLE に設定する場合は同時に `/INPUT=KANJI` で入力コードを KANJI に設定する必要があります。この機能を有効にすればターミナルから入力された Super DEC 漢字コードの文字を有効なコードとして受け取ることができるようになります。また、コマンド行の文字をそのバイト数にかかわらず、文字単位で編集できるようになります。省略時の設定は、DISABLE です。

DECnet 接続によるリモート・ターミナルに対しては設定できません。Telnet 接続の場合は設定できます。`/EDIT=ENABLE` と `/INPUT=KANJI` を同時に指定することはできません。また、`/INPUT` の設定が KANA の時は `/EDIT` の設定を ENABLE に変更することはできません。

`/FONT=ODL-type`

`/NOFONT`

オンデマンド・ローディングの実行を制御します。ODL-type には SOFT または HARD を指定できます。指定を省略すると SOFT として解釈されます。

`/FONT` または `/FONT=SOFT` を指定するとソフトウェア・オンデマンド・ローディングが動作し、日本語ターミナル・ドライバは漢字ターミナルのフォント ROM にない文字パターンを検出した場合に、フォント・ハンドラにその文字コードを通知することによって、フォント・データベースから対応するフォントを検索し、そのフォントを装置に転送します。

`/FONT=HARD` を指定するとハードウェア・オンデマンド・ローディングが動作し、装置からのフォント要求を検出した場合に、フォント・ハンドラにその文字コードを通知することによって、フォント・データベースから対応するフォントを検索し、そのフォントを装置に転送します。

装置のフォント ROM にない文字パターンを使用する場合は、`/FONT` を指定してオンデマンド・ローディングを Enable に設定するか、CMGR ユーティリティで作成されたプリロードファイルを TYPE コマンドまたは COPY コマンドでその装置にロードする必要があります (オンデマンド・ローディングについては第 2 章を、CMGR については第 4 章を参照してください)。

`/FONT` 修飾子の使用には、次の制限事項があります。

- `/FONT` と `/OUTPUT=KANJI` を同時に指定することはできません。
- リモート・ターミナル (RTxx のデバイス名) に対しては `/FONT` 修飾子は使用できません。

オンデマンド・ローディング機能がインストールされていない場合は、`/NOFONT` として、Disable に設定してください。

`/INPUT=input-code`

入力コードの処理を制御します。入力コードとして、KANA または KANJI を指定します。日本語ライブラリの JLB\$DEV\_KANJI\_IN ルーチンにより入力を参照しているアプリケーションでは、8 ビット目が ON のデータ入力時にこの設定が KANA としてある場合は 1 バイト・コード、KANJI としている場合は 2 バイト・コードによる入力として処理します。省略時は KANA です。

`/INPUT=KANA` と `/EDIT=ENABLE` を同時に指定することはできません。また、`/EDIT` の設定が `ENABLE` の時は `/INPUT` の設定を KANA に変更することはできません。

---

### 注意

---

DEC XTPU では、KANJIEN ユーティリティにおける `/INPUT=KANA` あるいは `/INPUT=KANJI` の設定を参照しますが、DEC XTPU の組込み関数 `SET(INPUT_MODE,{KANA|KANJI})` の設定が優先されます。

---

`/KCODE_TYPE=kanji-code-type`

装置が DEC 漢字 1978 年版 (JIS C 6226-1978 規格準拠) のときは DEC78、JIS 漢字 1983 年版 (JIS X 0208-1983 規格準拠) のときは DEC83 と設定します (省略時設定値は DEC83 です)。

DEC78 と設定すると、日本語ターミナル・ドライバは、JIS 漢字領域 8 区の罫線コードを拡張漢字領域 94 区の DEC 罫線コードに変換して出力します。

リモート・ターミナル (RTxx) に対しては設定できません。

`/OUTPUT=output-code`

装置の表示モードの参照用の設定です。出力コードとして、KANA または KANJI を指定します。日本語ライブラリの JLB\$DEV\_KANJI ルーチンにより表示モードを参照しているアプリケーションでは、この設定によってヘルプの切り替えなどをしています (省略時は KANJI です)。

`/FONT` または `/PRELOAD` と、`/OUTPUT=KANA` を同時に指定することはできません。

`/PRELOAD[=(START : 開始区番号, END : 終了区番号)]`

ユーザ定義文字の文字パターンを、指定した装置のメモリ (フォント RAM) に書き込みます。

開始区番号:           プリロードを開始する拡張領域の区番号 (1 ~ 94) を指定します (省略時の値は 1 です)。

終了区番号:           プリロードを終了する拡張領域の区番号 (1 ~ 94) を指定します (省略時の値は 1 です)。

/PRELOAD と/OUTPUT=KANJI, /SYSTEM を同時に指定することはできません。

---

**注意**

---

実際にプリロードが行われるのは、DEVICE\_TYPE が LA80, LA84, VT80, VT200\_Series, VT300\_Series の場合のみです。

プリロードされる文字パターンは、CMGR\_DEFAULT フォント・データベースに登録されているものです。

---

**/PERMANENT**

指定装置の種類を設定し直し、システムがシャット・ダウンするまで持続させます。この指定がないと、ログアウトした時点で属性はもとの設定に戻ります (DCL コマンド: SET TERMINAL/PERMANENT の仕様に同じ)。PHY\_IO 特権が必要です。

**/SYSTEM**

システムの省略時の設定を定義します。/SYSTEM と同時に指定された設定がシステムの省略時の設定となります。PHY\_IO および SYSPRV 特権が必要です。/SYSTEM と/PRELOAD を同時に指定することはできません。

---

**説明**

漢字ターミナルやプリンタの種類と属性の設定、オンデマンド・ローディング設定、プリローディングの要求、および文字単位編集機能の設定を行います。装置としては VT200\_Series, VT300\_Series, LA84, FOREIGN, ORIGINAL の設定ができます。また、KANJIEN は /DEVICE\_TYPE 修飾子に指定した装置の種類によって、次のようにターミナル属性を設定します。これは OpenVMS の SET TERMINAL コマンドを実行するのと同様です。

表 5-2 /DEVICE\_TYPE 修飾子によるターミナル属性の設定

ターミナル属性	VT200	VT300	LAXX
ADVANCED_VIDEO	Yes	Yes	No
ANSI_CRT	Yes	Yes	No
BLOCK_MODE	No	No	No
DEC_CRT	Yes	Yes	No
DEC_CRT2	Yes	Yes	No
DEC_CRT3	No	Yes	No
EDIT_MODE	Yes	Yes	No
EIGHT_BIT	Yes	Yes	Yes

(次ページに続く)

表 5-2 (続き) /DEVICE\_TYPE 修飾子によるターミナル属性の設定

ターミナル属性	VT200	VT300	LAXx
FORM	No	No	Yes
HARDCOPY/SCOPE	Scope	Scope	Hard
LFFILL	0	0	0
LOWERCASE/UPPERCASE	Low	Low	Low
PAGE	24	24	66
PRINTER_PORT	Yes	Yes	No
READ_SYNC	No	No	No
REGIS	- <sup>1</sup>	- <sup>1</sup>	No
SIXEL_GRAPHICS	Yes	Yes	No
SOFT_CHARACTERS	Yes	Yes	No
TAB	Yes	Yes	Yes
TTSYNC	Yes	Yes	Yes
TYPE_AHEAD	Yes	Yes	Yes
WIDTH	80	80	180
WRAP	Yes	Yes	Yes

<sup>1</sup> - は属性を変更しないことを示します。

## 例

- ```
$ RUN JSY$SYSTEM:KANJIGEN
KANJIGEN> SET /FONT/DEVICE_TYPE=VT200_SERIES/KCODE_TYPE=DEC78
```

現在使用中の漢字ターミナルを VT200\_SERIES として設定し、オンデマンド・ローディング処理も起動します。さらに、JIS 漢字領域 8 区の罫線コードを拡張領域 94 区の DEC 罫線コードに変換します。
- ```
$ RUN JSY$SYSTEM:KANJIGEN
KANJIGEN> SET TXA5/DEVICE_TYPE=LA84/NOFONT/PERMANENT
```

装置 TXA5 を LA84 として設定し、オンデマンド・ローディング処理は不要とします。またこの設定をログアウト後も有効とします。
- ```
$ RUN JSY$SYSTEM:KANJIGEN
KANJIGEN> SET /NOFONT/PRELOAD=END:3
KANJIGEN> SET /NOFONT/PRELOAD=(START:10,END:10)
```

現在使用中の漢字ターミナルに、DEC 拡張漢字領域の 1 区～3 区、および 10 区にあるユーザ定義文字の文字パターンをプリロードして、オンデマンド・ローディング処理は不要とします。



4. 

```
$ KANJIGEN := $JSY$SYSTEM:KANJIGEN
$ KANJIGEN SET/DEVICE_TYPE=VT300_SERIES
$
```

フォーリン・コマンドにより漢字ターミナルの属性を設定します。

5. 

```
KANJIGEN> SET/EDIT=ENABLE/INPUT=KANJI
```

現在使用中のターミナルの文字単位編集機能を有効にし、入力コードを漢字コードとして扱います。

---

## SHOW

指定した漢字ターミナルまたはプリンタの装置名や各種の属性の設定を表示します。

---

### 形式

SHOW *[device-name]*

| コマンド修飾子    | 省略時設定 |
|------------|-------|
| /ALL       | なし    |
| /SYSTEM    | なし    |
| /PERMANENT | なし    |

---

### パラメータ

*[device-name]*

表示する漢字ターミナルまたはプリンタの装置名を指定します。装置名は論理名でもかまいません。省略時は論理名 "TT" がとられるので、指定のない場合には通常、ログインした漢字ターミナルについて表示します。すでに他のプロセスによって占有されている装置の表示はできません。

---

### コマンド修飾子

/ALL

すべての漢字ターミナルおよびプリンタについて表示します。装置名を指定した場合は、この修飾子は使用できません。PHY\_IO, および SYSPRV, SHARE 特権が必要です。

/SYSTEM

システムの省略時の設定値を表示します。PHY\_IO, SYSPRV 特権が必要です。

/PERMANENT

指定された装置の PERMANENT な設定を表示します。DCL コマンドの SHOW TERMINAL/PERMANENT に同じです。PHY\_IO 特権が必要です。

---

### 説明

指定した漢字ターミナルまたはプリンタの以下の属性を表示します。

- 装置の種類

- オンデマンド・ローディングの設定が Soft または Hard であるか Disable か
- INPUT , OUTPUT の設定が KANA であるか KANJI か
- 使用する漢字コードが DEC 漢字コードセット 1978 年版であるか 1983 年版か
- 文字単位編集機能が Enable であるか Disable か

仮想ターミナルに設定されている漢字ターミナルの名前は、仮想ターミナル名 (VTAxX など) で表示されます (物理ターミナル名では表示されません)。

---

## 例

1.

```
$ RUN JSY$SYSTEM:KANJIGEN
KANJIGEN>SHOW TTC3
  Device Name      Type      On Demand Input Output KanjiCode M_EDIT
_TTC3:           VT200_Series DISABLE  KANA  KANJI  DEC 1983  DDISABLE
```

デバイス名 TTC3 という装置の設定を表示します。この例では、TTC3 は VT200 シリーズのターミナルとして設定されています。オンデマンド・ローディングは使用しておらず、8 ビット目がオンのデータは、入力ではカナ・コードとして、出力では漢字コードとして処理されます。ターミナルのフォント ROM のバージョンは DEC 漢字 1983 年版です。文字単位編集機能は使用していません。

---

## フォント管理ユーティリティ・メッセージ

この章では、フォント管理ユーティリティのメッセージをアルファベット順に記載しています。各メッセージにはその説明と共に、エラーから回復するための処置も記述されています。

---

### 6.1 メッセージの表示

メッセージは、論理名 SYSS\$OUTPUT で示される装置に対して、出力されます。会話型ユーザでは、通常は使用中のターミナルに対して出力され、バッチ・ユーザでは、ログ・ファイルに出力されます。論理名 SYSS\$OUTPUT と SYSS\$ERROR が、異なる装置に割り当てられている場合、両方の装置にメッセージが表示されます。

---

### 6.2 メッセージの形式

フォント管理ユーティリティが出力するほとんどのシステム・メッセージは、次の形式をしています。

```
%FACILITY-severity_code-message_name, text of message
```

表 6-1 は、メッセージの各フィールドを説明しています。

表 6-1 メッセージ・フィールド

| フィールド                  | 説明                         |
|------------------------|----------------------------|
| FACILITY               | OpenVMS のファシリティまたはユーティリティ名 |
| <i>severity_code</i>   | 1 文字の重大度レベル・コード            |
| <i>message_name</i>    | メッセージ短縮形 (メッセージ識別コード)      |
| <i>text of message</i> | 現象を説明するメッセージ               |

#### 6.2.1 重大度レベル

メッセージには重大度レベルが含まれています。重大度レベルによって受け取ったメッセージの程度を知ることができます。

表 6-2 メッセージ重大度レベル

| レベル             | 説明                                                                                           |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| S (Success)     | 要求を実行したことを示します。                                                                              |
| I (Information) | 実行したコマンドについての情報を示します。                                                                        |
| W (Warning)     | コマンドの実行を中止させる程ではない軽度のエラーを示します。コマンドの一部は実行したが、全部は実行できなかった可能性があるため、コマンドの結果やプログラムの出力などを確認してください。 |
| E (Error)       | コマンドやプログラムが正しく実行できなかったことを示します。ただし、システムは実行を継続しようとする場合があります。                                   |
| F (Fatal)       | 継続不可能なエラーを示します。                                                                              |

### 6.2.2 追加メッセージ

フォント管理ユーティリティは、2つ以上のメッセージを同時に表示することがあります。その場合、後に続くメッセージは "%" ではなくて "-" が付けられています。一連のメッセージは、エラーの原因を知る手掛かりになります。追加メッセージは普通、異なったファシリティから出され、エラーの詳しい説明をします。

## 6.3 KANJIGEN のメッセージ

この節では、KANJIGEN ユーティリティの各メッセージについて、簡単に説明しています。ユーザの取るべき処置についても説明されています。

説明は、メッセージ識別コードによるアルファベット順に並んでいます。メッセージのファシリティコード (%KANJIGEN) と重大度レベルは、省略されています。

**CANCEL , Request canceled, Combination of FONT and OUTPUT=KANA is not allowed**

説明: 表示モードが KANA に設定されている場合には、漢字ターミナルをオンデマンド・ローディング実行モードに設定することはできません。

ユーザの処置: 漢字ターミナルの表示モードを KANJI に設定してください。

**DEVALLOC , Device already allocated to another user**

説明: 設定しようとした漢字ターミナルが、既に他のプロセスに占有されています。この漢字ターミナルについて表示または設定することはできません。

ユーザの処置: ありません。

**INVCNTRL , Controller of the specified device is not supported**

説明: 指定した漢字ターミナルが接続されているコントローラは、オンデマンド・ローディングをサポートしていません。オンデマンド・ローディング実行モードを設定することはできません。

ユーザの処置: ありません。

**INVPAGE , Invalid page number was specified**

説明: SET コマンドの/PRELOAD 修飾子に指定された区番号が誤ってます。  
ユーザの処置: 正しい区番号を指定してください。

**IVDEVNAM , Invalid device name**

説明: 設定しようとした漢字ターミナルの名前に誤りがあります。  
ユーザの処置: 漢字ターミナル名を確認し、設定し直してください。

**MDMNOTSUP , /FONT is not set to remote terminal**

説明: モデムを介して接続された漢字ターミナルには、オンデマンド・ローディング実行モードを設定できません。  
ユーザの処置: ありません。

**NOCOMB , This combination is not allowed**

説明: 指定した修飾子の組み合わせに誤りがあります。  
ユーザの処置: 修飾子を正しい組み合わせで指定するか、各修飾子別にコマンドを実行してください。

**NOFONTHNDL , FONT\_HANDLER process does not exist, /FONT ignored**

説明: フォント・ハンドラのプロセスが何らかの原因で消滅しています。漢字ターミナルを、オンデマンド・ローディング実行モードに設定することはできません。  
ユーザの処置: システム管理者に通知し、フォント・ハンドラのプロセスを再起動してください。

**NOSUCHDEV , No such device available**

説明: 指定した漢字ターミナルはシステム中に存在しません。  
ユーザの処置: 漢字ターミナル名を確認し、設定し直してください。

**NOTKJ , Class driver is not HNDRIVER**

説明: クラス・ドライバが、オンデマンド・ローディングをサポートするドライバではありません。  
ユーザの処置: SYS\$LOADABLE\_IMAGES: ディレクトリに HNDRIVER.EXE があることを確認後、JSY\$SYSTEM:JSY\$SETPARAMS.COM を実行してシステムをリブートし、日本語 OpenVMS の環境を設定してください。

**NOTLDASD , ASDRIVER is not loaded in this system**

説明: 日本語ターミナル・ドライバ ASDRIVER が、ロードおよびコネクタされていません。  
ユーザの処置: JSY\$SYSTEM:JSY\$SETPARMS.COM を実行してシステムをリブートし、日本語 OpenVMS の環境を設定してください。

**REMOTE , "FONT", "KCODE\_TYPE" can not be Processed at remote node**

説明: リモート・ターミナルに対しては、オンデマンド・ローディング実行モードと DEC 漢字コードのバージョンを設定することはできません。  
ユーザの処置: ありません。

## 6.4 Character Manager (CMGR) のメッセージ

この節では、CMGR ユーティリティの各メッセージについて、簡単に説明しています。ユーザの取るべき処置についても説明されています。

説明は、メッセージ識別コードによるアルファベット順に並んでいます。メッセージのファシリティコード (%CMGR) と重大度レベルは省略されています。引用符で囲まれた言葉は可変の情報で、メッセージを出力する際に CMGR ユーティリティが適切な言葉と入れ換えます。

### ABORT , Current operation aborted

説明: 実行中の処理が強制終了されました。

ユーザの処置: ありません。

### ALREDIT , Already editing character '*character-code*'

説明: 指定された文字コードのパターンは、既に編集中です。

ユーザの処置: ありません。

### AMBFILNAM , Ambiguous file name specified, \*'file-spec'*\

説明: ファイル名が曖昧です。1つのファイルを特定できません。

ユーザの処置: ファイル名が一意になるように指定し直してください。

### BADCODE , read bad code

説明: 不正な2バイト文字が検出されました。

ユーザの処置: 正しくキー入力し直してください。

### BADESCAPE , syntax error in escape sequence

説明: 不正なエスケープ・シーケンスが検出されました。

ユーザの処置: 正しくキー入力し直してください。

### BADLOCALINFO , Syntax error in country information data file

説明: カントリ・インフォメーション・ファイル内の定義が誤っています。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

### BUFFCHNGD , Changed to USE buffer, press PF1/KP0 to return

説明: 使用するバッファが、EDIT バッファから USE バッファに変更されました。

ユーザの処置: EDIT バッファに戻るには、PF1/KP0 を押してください。

### BUFOVERFLOW , Internal input buffer overflow, discard recent input

説明: キー入力バッファがオーバー・フローしました。

ユーザの処置: もう1度、キー入力してください。

### CONFLICT , Illegal combination of command elements

説明: 同時に指定できない修飾子やパラメータの組み合わせが、コマンドに含まれています。

ユーザの処置: コマンドを正しく指定し直してください。

CPGFONT , Copying font pattern of size '*size-spec*' in '*name*' database ...

説明: データベース内の文字パターンをコピーします。

ユーザの処置: ありません。

CURDB , Current Database is '*name*'

説明: 現在参照されているデータベースは, '*name*' です。

ユーザの処置: ありません。

DATCREATE , New data record created for character '*code-spec*'

説明: 編集可能サイズの文字パターンを, 新たに EDIT コマンドの内部バッファに作成しました。

ユーザの処置: ありません。

DATREMOVED , Some or all data removed for '*character-code*'

説明: 全サイズ, あるいはいくつかのサイズの文字パターンが, EDIT コマンドの内部バッファから削除されました。

ユーザの処置: ありません。

DBNOTCHG , '*name*' System Database not changed

説明: 参照するデータベースは変更されませんでした。

ユーザの処置: ありません。

DBPARTUPD , '*name*' System Database partially updated

説明: データベースが部分的に更新されました。

ユーザの処置: 必要ならばデータベースの内容を調べ, 整合性を確認してください。

DBSET , Current Database set to '*name*'

説明: 参照するデータベースを設定しました。以後の操作は, このデータベースに対して行われます。

ユーザの処置: ありません。

DBUPD , '*name*' System Database Updated

説明: データベースが更新されました。

ユーザの処置: ありません。

DECKEISEN , DEC Kanji Keisen character code '*character-code*' specified

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の, DEC 罫線文字の文字コードがありません。

ユーザの処置: ありません。

DEFDB , Using Default Database '*name*'

説明: 参照するデータベースを省略時設定のものとししました。以後の操作は, このデータベースに対して行われます。

ユーザの処置: ありません。

EDTCANCLD , Font editing for '*character-code*' canceled

説明: その文字パターンの編集はキャンセルされました。

ユーザの処置: ありません。



EDTDISABLED , Editing function is disabled in USE buffer

説明: USE バッファ内では、描画機能は使用できません。

ユーザの処置: ありません。

EDTEXITD , Font editing terminated

説明: 文字パターンの編集作業を、正常に終了します。

ユーザの処置: ありません。

EDTQUITD , Font editing quitted

説明: 文字パターンの編集作業は、すべてキャンセルされました。編集結果はファイルに出力されませんでした。

ユーザの処置: ありません。

EFDIFCLUS , time schedule event flag in different cluster

説明: 初期化時のイベント・フラグ・クラスタの関係付けに失敗しました。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

EMODECHNGD , Editing mode changed

説明: 文字パターンの編集モードが変更されました。

ユーザの処置: ありません。

ENF , Entry not found in Index File

説明: キャラクタ・インデックス・ファイル内の定義が誤っています。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

ENTRYLMT , Entry limit '*number-of-patterns*' reached

説明: /ENTRY\_LIMIT 修飾子に指定された個数の文字パターンを、出力しました。これ以上は出力されません。

ユーザの処置: ありません。

EOF , End of file detected '*file-name*'

説明: ファイルの最後 (EOF マーク) を検出しました。

ユーザの処置: ありません。

ERRFILNAM , Error parsing file name \*'file-spec'*\

説明: 指定されたファイル名が解釈できません。

ユーザの処置: 正しいファイル名を指定してください。

ESIZECHNGD , Editing font size changed

説明: 編集する文字パターンのサイズが変更されました。

ユーザの処置: ありません。

EXTSTD , Invalid character code \*'character-code'*\

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の、JIS X 0208 第 2 水準文字を使用できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

EXTSTDSPEC , Invalid character code

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の JIS X 0208 第 2 水準文字を使用できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

FDBCONVEND , Total '*number-of-patterns*' patterns converted to '*name*' database

説明: 旧データベースから、'*number-of-patterns*' 個の文字パターンが変換されて、新しいデータベース上に登録されました。

ユーザの処置: ありません。

FDBCONVERR , Font Database conversion error

説明: データベースの変換時にエラーが発生しました。

ユーザの処置: 旧データベースが破壊されている可能性があります。システム管理者またはフィールド・サービス・エンジニアに連絡してください。

FDBCONVNG , Converting old database to '*name*' database ...

説明: 旧データベースを、Character Manager 用の新しいものに変換しています。

ユーザの処置: ありません。

FDBERR , Font database error

説明: データベースが不正です。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

FILCLERR , Can't close file '*file-spec*'

説明: ファイルがクローズできません。

ユーザの処置: エラーの原因を取り除いてください。

FILCRERR , File creation error \*'file-spec'*\

説明: 出力ファイルが作成できません。

ユーザの処置: エラーの原因を取り除いてください。

FILOPERR , Can't open file '*file-spec*'

説明: ファイルがオープンできません。

ユーザの処置: エラーの原因を取り除いてください。

FNTDISPLYD , Font pattern displayed

説明: 漢字ターミナルに、文字パターンが表示されました。

ユーザの処置: ありません。

FONCONV , Font pattern of size '*size-spec*' for code '*character-code*' converted

説明: 文字パターンを変換しました。

ユーザの処置: ありません。

FONTCONVTD , Font Data of '*character-code*' is converted

説明: 文字パターンを変換しました。

ユーザの処置: ありません。

FONTCPD , Font pattern of size '*size-spec*' copied from code '*character-code1*' to code '*character-code2*'

説明: データベース中の文字パターンをコピーしました。

ユーザの処置: ありません。

FONTEXIST , Font pattern of size '*size-spec*' for code '*character-code*' already exist

説明: その文字コードの文字パターンは、既にデータベース上に登録されています。

ユーザの処置: ありません。

FONTRMD , Font pattern of size '*size-spec*' for code '*character-code*' removed

説明: データベース中の文字パターンを削除しました。

ユーザの処置: ありません。

FONTUPD , Font pattern of size '*size-spec*' for code '*character-code*' updated

説明: プリロード・ファイルから、データベースに文字パターンが登録されました。

ユーザの処置: ありません。

FONXTD , Font pattern of size '*size-spec*' for code '*character-code*' extracted

説明: プリロード・ファイルに、データベースから文字パターンが出力されました。

ユーザの処置: ありません。

FONWRN , '*number-of-patterns*' font patterns written to file '*file-spec*'

説明: '*number-of-patterns*' 個の文字パターンが、ファイルに書き込まれました。

ユーザの処置: ありません。

FREERR , Error in freeing memory

説明: 割り当てられた記憶領域を解放できません。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

GLYPHOUT , '*number-of-patterns*' patterns written in '*file-spec*'

説明: '*number-of-patterns*' 個の文字パターンが、プリロード・ファイルに出力されました。

ユーザの処置: ありません。

INITERR , Initialization error

説明: 起動時の初期化に失敗しました。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

INSARG , Insufficient arguments specified

説明: 関数を呼び出す際に内部エラーが発生しました。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

**INSPRIV , Insufficient privilege for operation**

説明: 該当操作には特権が必要です。

ユーザの処置: 一般ユーザは処理を実行できません。必要であれば、システム管理者に連絡して特権を付与してもらってください。

**INTERNALERROR , Internal error, Please submit SPR with problem description**

説明: 内部エラーです。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

**INTRES , Invalid character code \*character-code*\**

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の JIS 保留文字を使用 できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

**INTRESFND , DEC Internal Reserved Character \*character-code*\ found**

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の JIS 保留領域に含まれている文字コードがあります。

ユーザの処置: ありません。

**INTRESSPEC , Invalid character code**

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の JIS 保留文字を使用できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

**ALANS , invalid answer '*answer*'**

説明: 確認要請に対する返答を認識できません。

ユーザの処置: 正しい返答を入力してください。

**INVBITMAP , Invalid bitmap data specified**

説明: 文字パターンがフォント・ファイル形式ではありません。

ユーザの処置: フォント・ファイルを指定してください。

**INVBUF , Invalid buffer specified**

説明: 文字パターンを読み込む際に内部エラーが発生しました。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

**INVCHRCODE , Invalid character code specified**

説明: 指定された文字コードが認識できません。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

**INVCHRSTR , Invalid character code \*code-spec*\ specified**

説明: 指定された文字コードが認識できません。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

**INVCODE , Invalid character code \*character-code*\**

説明: 不正な文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

INVCODESPEC , Invalid character code

説明: 不正な文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

INVDBNAME , Invalid database name

説明: データベース名が不正です。

ユーザの処置: CMGR\$DATABASE\_NAME 論理名が、正しいデータベース名を指していることを確認してください。正しいデータベース名が定義されている場合には、SPR を提出してください。

INVENTLMT , Invalid entry limit *\ 'max-limit'*

説明: /ENTRY\_LIMIT 修飾子に指定された値が不正です。

ユーザの処置: 正の数値を指定してください。

INVFF , *\ 'file-spec'* is not a font file

説明: 指定されたファイルは、フォント・ファイルではありません。

ユーザの処置: フォント・ファイルを指定してください。

INVFREC , Record *'rec-number'* of *\ 'file-spec'* is invalid

説明: 指定されたフォント・ファイルの *'rec-number'* 番目のレコードが不正です。

ユーザの処置: 正しいフォント・ファイルを指定してください。

INVID , Invalid identifier

説明: データベース識別子が不正です。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

INVKEYWORD , Invalid keyword specified, *'key-word'*

説明: キーワードが不正です。

ユーザの処置: 正しいキーワードを指定してください。

INVMAS , Invalid Master index file

説明: キャラクタ・マスタ・インデックス・ファイル内の定義が誤っています。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

INVMOD , Invalid file access mode

説明: ファイル・アクセス・モード識別子が不正です。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

INVNUM , Invalid numeric string

説明: 数字以外が入力されました。

ユーザの処置: 数値を入力してください。

INVNUMENTRY , Invalid numeric entry *\ 'input-string'*

説明: /ENTRY\_LIMIT 修飾子に指定された値が不正です。

ユーザの処置: 正の数値を指定してください。

INVPREFIL , Invalid preload file specified

説明: プリロード・ファイルをオープンする際に内部エラーが発生しました。  
ユーザの処置: SPR を提出してください。

INVPRESEQ , Invalid preload sequence

説明: 文字パターンがプリロード形式ではありません。  
ユーザの処置: プリロード・ファイルを指定してください。

INVRAN , Invalid range specified \*'character-code1'-'character-code2'*\

説明: 文字コードの範囲が不正です。  
ユーザの処置: 正しい範囲を指定してください。

INVREADPRESEQ , Invalid preload sequence read

説明: 文字パターンがプリロード形式ではありません。  
ユーザの処置: プリロード・ファイルを指定してください。

INVSECTION , Invalid section number specified \*'section-number'*\

説明: 不正な区番号が指定されました。  
ユーザの処置: 正しい区番号を指定してください。

INVSIZ , Invalid font size \*'size'*\ specified

説明: 文字サイズが不正です。  
ユーザの処置: 正しいサイズを指定してください。

ISDEFDB , Already using Default Database "*name*"

説明: 参照データベースは、既に省略時設定のものに設定されています。  
ユーザの処置: ありません。

LOADFONT , Loading glyphs to your terminal, please wait...

説明: 漢字ターミナルに、文字パターン表示用のグリフをロードしています。  
ユーザの処置: ロードの終了を、そのままお待ちください。

MARKED , Current cursor position is marked

説明: 現在のカーソル位置をマークしました。  
ユーザの処置: ありません。

MEMORYEXHST , Memory exhausted

説明: 記憶領域を割り当てることができません。プロセスまたはシステムの持つ  
仮想記憶領域の制限を越えてしまいました。  
ユーザの処置: 記憶領域を十分に増やしてから、もう1度該当操作を行ってください。

NOCHRCODE , No character code specified, use ENTER key to input

説明: 編集する文字コードが指定されていません。  
ユーザの処置: **ENTER** キーを押して、編集する文字コードが指定してください。

NOCODEINDB , No such code in database

説明: その文字コードのデータは、データベースにはありません。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

NOCODEINFO , Can't find code information file

説明: コードセット情報ファイルが見つかりません。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

NODATA , No data record found for character '*character-code*'

説明: 指定された文字コードのパターンが見つかりません。

ユーザの処置: ありません。

NODATREMVD , No data removed for '*character-code*'

説明: 文字パターンは、EDIT コマンドの内部バッファから削除されませんでした。

ユーザの処置: ありません。

NODB , No Character Database found

説明: キャラクタ・マスタ・インデックス・ファイルに、データベース名が指定されていません。

ユーザの処置: CMGR\$MASTER 論理名が正しいキャラクタ・マスタ・インデックス・ファイルを指していることを確認してください。正しいファイル名が定義されている場合には、SPR を提出してください。

NODRCS , Terminal does not support DRCS capability

説明: 漢字ターミナルが DRCS をサポートしていません。

ユーザの処置: この漢字ターミナルでは EDIT コマンドは使用できません。他の漢字ターミナルを使ってください。

NOEF , Can not get event flags

説明: イベント・フラグが確保できません。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

NOFONFF , No font found in font file '*file-spec*'

説明: 指定されたフォント・ファイルには、文字パターンがありません。

ユーザの処置: ありません。

NOFONT , No font pattern of size '*size-spec*' for specified code '*character-code*'

説明: 指定された文字コードのパターンが見つかりません。

ユーザの処置: ありません。

NOFONTXTD , No font of size '*size-spec*' extracted to file '*file-spec*'

説明: 文字パターンは、ファイルに出力されませんでした。

ユーザの処置: ありません。

NOINBUFF , Nothing to paste from PASTE buffer

説明: PASTE バッファが空です。

ユーザの処置: 領域を取り込んでから、もう1度描画してください。

**NOIND , Font index file not found**

説明: キャラクタ・インデックス・ファイルが見つかりません。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

**NOKEYWORD , Keyword not allowed**

説明: 文字コードの指定に、キーワードは使えません。

ユーザの処置: キーワードを取り除いて、再度文字コードを指定してください。

**NOLICENCE , License is invalid for this product**

説明: 日本語 OpenVMS のライセンスがロードされていません。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。



NOMARK , No pixel is marked

説明: マークされているピクセルはありません。

ユーザの処置: ありません。

NOMAS , Master index file not found

説明: キャラクタ・マスタ・インデックス・ファイルが見つかりません。日本語 OpenVMS のスタートアップ・プロシージャが正しく実行されていない可能性があります。

ユーザの処置: システム管理者に連絡し, CMGR\$MASTER 論理名を正しく定義し直してもらってください。

NOMSG , Can't find CMGR message

説明: メッセージ・ファイルがありません。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

NONTEXTFIL , Not a text file *'file-spec'*

説明: 指定されたファイルが, テキスト・ファイルではありません。

ユーザの処置: テキスト・ファイルを指定してください。

NONUDC , Non-UDC within Quadrant: *'quadrant-spec'*, Section: *'section-number'* not output

説明: 指定された象限・区には, ユーザ定義文字はありません。

ユーザの処置: 正しい象限または区番号を指定し直してください。

NORMAL , Normal successful completion

説明: コマンドの実行は正常終了しました。

ユーザの処置: ありません。

NORUDC , Invalid character code *'character-code'*

説明: ユーザ定義文字を使用できない場合に, この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

NORUDCSPEC , Invalid character code

説明: ユーザ定義文字を使用できない場合に, この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

NOSELECT , No selection area, no action taken

説明: 描画領域が選択されていません。

ユーザの処置: 領域を選択してから, もう1度描画してください。

NOSUCHDB , No such character database

説明: データベース名が不正です。

ユーザの処置: CMGR\$DATABASE\_NAME 論理名が正しいデータベース名を指していることを確認してください。正しいデータベース名が定義されている場合には, SPR を提出してください。

NOSUCHFIL , No such file exists, *'file-spec'*

説明: 入力ファイルがありません。

ユーザの処置: 必要な場合には, 入力ファイルを正しく指定し直してください。

NOSUCHMASID , No such IDs in Master index file

説明: キャラクタ・マスタ・インデックス・ファイルに無い識別子が指定されました。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

NOTANSICRT , Terminal is not ANSI\_CRT

説明: 漢字ターミナルが ANSI 準拠ではありません。

ユーザの処置: DEC 製漢字ターミナルの場合には, DCL の SET TERMINAL コマンドで漢字ターミナル属性を設定してください。

NOTCREATD , No modification, output file not created

説明: 文字パターンが変更されなかったで, 出力ファイルは作成されません。

ユーザの処置: ありません。

NOTSQUARE , Selection area is not square, no action taken

説明: 選択領域が正方形ではありません。描画できません。

ユーザの処置: 選択領域を正方形にして, もう 1 度処理してください。

NOUDC , No UDC in reference file(s)

説明: 指定されたテキスト・ファイルには, ユーザ定義文字が含まれていません。

ユーザの処置: ありません。

NOWILD , Wild card operation not allowed, 'input-string'

説明: 該当操作にはワイルド・カードは使用できません。

ユーザの処置: コマンドを入力し直してください。

OPERATIONQUIT , Operation quitted

説明: 現処理がキャンセルされました。

ユーザの処置: ありません。

READBUFF , Reading memory buffer

説明: EDIT コマンドの内部バッファから, 文字パターンを読み込んでいます。

ユーザの処置: ありません。

READDB , Reading 'name' database

説明: データベースから, 文字パターンを読み込んでいます。

ユーザの処置: ありません。

READERR , File read error '\file-spec'

説明: ファイルが読めません。

ユーザの処置: エラーの原因を取り除いてください。

READFIL , Reading file 'file-spec'

説明: 入力ファイルを読み込んでいます。

ユーザの処置: ありません。

RESCODEIGND , Reserved character code '*character-code*' ignored

説明: DEC 確保領域に含まれている文字コードに対する処理要求は、無視されました。

ユーザの処置: ありません。

RESUDCFND , Reserved User Defined Character \*'character-code'*\ found

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の、DEC 確保領域に含まれている文字コードがあります。

ユーザの処置: ありません。

RETEDTBUFF , Returned to EDIT buffer

説明: 使用するバッファが、USE バッファから EDIT バッファに戻りました。

ユーザの処置: ありません。

RMGFONT , Removing font pattern of size '*size-spec*' from '*name*' database ...

説明: データベース内の文字パターンを削除します。

ユーザの処置: ありません。

RNF , Record not found

説明: ファイルの最後 (EOF マーク) を検出しました。

ユーザの処置: ありません。

SELCANCL , Area selection canceled

説明: Select キーが 2 度押され、領域選択モードは解除されました。

ユーザの処置: ありません。

SELSTART , Area selection started, move cursor to select area

説明: Select キーが押され、領域選択モードになりました。

ユーザの処置: カーソルを動かして領域を選択してください。Select キーをもう 1 度押せば、領域選択モードは解除できます。

SIZCONVEROR , Font pattern size conversion error

説明: 文字パターンの文字サイズ変換時にエラーが発生しました。

ユーザの処置: SPR を提出してください。

SORTDATA , Sorting font data, please wait...

説明: EDIT コマンドの内部バッファに格納されているデータを、ソートしています。

ユーザの処置: ソートの終了を、そのままお待ちください。

STDCHR , Invalid character code \*'character-code'*\

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の、JIS X 0208 第 1 水準文字を使用できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

STDCHRSPEC , Invalid character code

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の JIS X 0208 第 1 水準文字を使用できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

TMPFILERR , Temporary output file creation error, '*file-spec*'

説明: 一時ファイルの作成に失敗しました。

ユーザの処置: SYSSCRATCH 論理名が、正しいディレクトリを指し、かつそのディレクトリに対し書き込みアクセス権があることを確認してください。

TMPFILNAM , Temporary file name, '*file-spec*', will be used

説明: 何らかの原因で、出力ファイルが作成できません。編集結果は一時ファイルに出力されます。

ユーザの処置: 追加メッセージを参照して、エラーの原因を取り除いて置いてください。

TOTFONTXTD , A total of '*number-of-patterns*' fonts of size '*size-spec*' extracted to file '*file-spec*'

説明: '*number-of-patterns*' 個の文字パターンが、ファイルに出力されました。

ユーザの処置: ありません。

UDCRES , Invalid character code '\'*character-code*'\

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の DEC 確保文字を使用できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

UDCRESSPEC , Invalid character code

説明: DEC 漢字文字セット 1983 年版の、DEC 確保文字を使用できない場合に、この文字コードを検出しました。

ユーザの処置: 正しい文字コードを指定してください。

UNEXPTEVNT , Unexpected event met in CMGR

説明: メッセージ・ファイルがありません。

ユーザの処置: システム管理者に連絡してください。

UNKNOWNTERM , Terminal unknown

説明: 漢字ターミナルのターミナル・タイプを認識できません。

ユーザの処置: DEC 製漢字ターミナルの場合には、DCL の SET TERMINAL コマンドで漢字ターミナル属性を設定してください。

USERVALREQD , Value required for /USER qualifier

説明: /USER 修飾子に、ファイル名が指定されていません。

ユーザの処置: プリロード・ファイルを指定してください。

UPGFONT , Updating font pattern of '*name*' database from file '*file-spec*' ...

説明: プリロード・ファイルから、データベースに文字パターンを登録します。

ユーザの処置: ありません。

VERSION , CMGR Version '*version-number*'

説明: Character Manager のバージョンは '*version-number*' です。

ユーザの処置: ありません。

WHOLESEL , Whole editing area is selected

説明: 全編集可能領域が選択されました。

ユーザの処置: ありません。

WRITEERR , File write error \*'file-spec'*\

説明: ファイルに書き込めません。

ユーザの処置: エラーの原因を取り除いてください。

WRITFIL , Writing file '*file-spec*'

説明: 出力ファイルに書き込んでいます。

ユーザの処置: ありません。

XTGFONT , Extracting font pattern of size '*size-spec*' from '*name*' database ...

説明: データベースからプリロード・ファイルに、文字パターンを出力します。

ユーザの処置: ありません。

---

## 6.5 フォント・ハンドラのメッセージ

この節では、フォント・ハンドラの各メッセージについて、簡単に説明しています。ユーザの取るべき処置についても説明されています。

フォント・ハンドラは実行中に検出したエラーを、オペレータ・コンソールに OPCOM メッセージとして通知します。

### FONT DATA BASE OPEN ERROR

説明: フォント・ハンドラが、システム・フォント・データベースをオープンした時に、回復不可能なエラーが発生しました。フォント・ハンドラは、異常終了します。

ユーザの処置: システム・アカウントで以下のコマンドを実行してください。

```
$RUN/DETACHED/PRIORITY=8/PRIVILEGES=(CMKRNL,PHY_IO) -  
  /PROCESS_NAME="JSY$FS_JA_JP_01"/RESOURCE_WAIT/NOSWAPPING/UIC=[1,20] -  
  /INPUT=NL:/OUTPUT=NL:/ERROR=NL: JSY$SYSTEM:FONTHANDL.EXE
```

### FONT DATA BASE READ ERROR

説明: フォント・ハンドラが、システム・フォント・データベースを読んだ時に回復不可能なエラーが発生しました。フォント・ハンドラは、異常終了します。

ユーザの処置: システム・アカウントで以下のコマンドを実行してください。

```
$RUN/DETACHED/PRIORITY=8/PRIVILEGES=(CMKRNL,PHY_IO) -  
  /PROCESS_NAME="JSY$FS_JA_JP_01"/RESOURCE_WAIT/NOSWAPPING/UIC=[1,20] -  
  /INPUT=NL:/OUTPUT=NL:/ERROR=NL: JSY$SYSTEM:FONTHANDL.EXE
```

# 索引

## A

ASCII . . . . . 1-4  
ASDRIVER . . . . . 2-1  
AUTOGEN ユーティリティ . . . . . 2-2

## C

Character Manager(CMGR) . . . . . 1-4  
    メッセージ . . . . . 6-4  
    ユーティリティ . . . . . 1-1, 4-1  
CMGR  
    コマンド一覧 . . . . . 4-4  
    ユーティリティ . . . . . 1-3  
CMGR\$DATABASE\_NAME . . . . . 4-3, 4-34, 4-55  
CMGR\$MASTER . . . . . 4-1  
CMGR\_DEFAULT . . . . . 3-3, 4-55, 5-9  
CMGR コマンド . . . . . 4-4  
    CONVERT DATABASE . . . . . 4-5  
    CONVERT FONT\_FILE . . . . . 4-8  
    CONVERT FONT\_SIZE . . . . . 4-10  
    COPY . . . . . 4-12  
    EDIT . . . . . 4-16  
    EXIT . . . . . 4-23  
    EXTRACT CODE . . . . . 4-24  
    EXTRACT REFERENCE . . . . . 4-27  
    HELP . . . . . 4-30  
    REMOVE . . . . . 4-31  
    SET DATABASE . . . . . 4-34  
    SHOW BITMAP . . . . . 4-36  
    SHOW CHARACTER\_SET . . . . . 4-43  
    SHOW DATABASE . . . . . 4-44  
    SHOW TABLE . . . . . 4-46  
    SHOW VERSION . . . . . 4-51  
CMGR ユーティリティ . . . . . 4-1  
    起動方法 . . . . . 4-1  
    制限事項 . . . . . 4-55  
    ファイル形式 . . . . . 4-1

## D

DEC 罫線 . . . . . 2-2  
DEC Laser 2300 . . . . . 1-5, 3-2  
DEC XTPU . . . . . 5-8  
DEC 拡張漢字 . . . . . 1-3, 3-1  
DEC 漢字  
    コードセット . . . . . 1-4  
    1978 年版 . . . . . 5-8

## DEC 漢字 (続き)

    1983 年版 . . . . . 5-8  
    文字セット . . . . . 1-3  
DRCS . . . . . 1-4, 4-16

## E

### EDIT

    コマンド  
        編集スクリーン . . . . . 4-18  
    バッファ . . . . . 4-18

## F

### FEDIT

    ユーティリティ . . . . . 4-9  
FHDRIVER . . . . . 2-1

## G

GOTHIC . . . . . 4-55

## J

JEVE . . . . . 5-8  
JIS C 6226-1978  
    規格 . . . . . 5-8  
JIS X 0208-1983  
    規格 . . . . . 5-8  
    第 1 水準漢字 . . . . . 1-2  
    第 2 水準漢字 . . . . . 1-2, 1-3, 3-1, 4-3, 4-25,  
        4-28, 4-55  
JLB\$DEV\_KANJI . . . . . 5-8  
JLB\$DEV\_KANJI\_IN . . . . . 5-8  
JSY\$ASDRIVER . . . . . 2-1  
JSY\$CHARACTER\_INDEX.DAT . . . . . 4-3  
JSY\$CHARACTER\_MASTER\_INDEX.DAT  
    . . . . . 4-1  
JSY\$DECKANJI\_CODE\_INFO.DAT . . . . . 4-2  
JSY\$FHDRIVER . . . . . 2-1  
JSY\$GOTHIC\_24X24\_USER.GDB . . . . . 4-3  
JSY\$JAPAN\_SPECIFIC.DAT . . . . . 4-2  
JSY\$LATSYSM.EXE . . . . . 3-2  
JSY\$PRTSMB.EXE . . . . . 3-2  
JSY\$PRTSMB\_HWTYPE . . . . . 3-1, 3-2  
JSY\$PRTSMB\_HWTYPE\_queue-name . . . . . 3-1  
JSY\$SYSTEM . . . . . 4-1, 4-2, 4-3

JSYSSYSTEM:JSYSRESETPARAMS.COM  
 ..... 2-2  
 JSYSSYSTEM:JSYSSETPARAMS.COM ..... 2-2

## K

KANJIEN  
 メッセージ ..... 6-2  
 KANJIEN コマンド  
 EXIT ..... 5-3  
 HELP ..... 5-4  
 SET ..... 5-5  
 SHOW ..... 5-12  
 KANJIEN コーティリティ . . . 1-1, 1-3, 2-3, 5-1  
 概要 ..... 5-1  
 起動方法 ..... 5-1  
 コマンド一覧 ..... 5-1  
 制限事項 ..... 5-5  
 KJDRIVER ..... 2-1

## L

LA280 ..... 1-5, 3-2, 5-6  
 LA380 ..... 1-5, 3-2, 5-6  
 LA86 ..... 1-5, 3-2, 5-6  
 LA88 ..... 1-5, 3-2, 5-6  
 LA90 ..... 1-5, 3-2, 5-6  
 LATSVM.EXE ..... 3-2  
 LN03 ..... 1-5, 3-2

## O

OpenVMS Cluser ..... 1-5

## P

PASTE バッファ ..... 4-21  
 PHY\_IO 特権 ..... 5-9, 5-12  
 PRTSMB.EXE ..... 3-2

## R

REFER ウィンドウ ..... 4-20

## S

SET TERMINAL ..... 1-1  
 SHARE 特権 ..... 5-12  
 SYSSCRATCH ..... 4-16  
 SYSSYSTEM:MODPARAMS.DAT ..... 2-2  
 SYSTTDTRIVER ..... 2-1  
 SYSPRV 特権 ..... 4-12, 4-31, 4-52, 5-9, 5-12

## T

TTY\_CLASSNAME ..... 2-2

## U

UDC ..... 1-4  
 UPDATE ..... 4-52  
 USE バッファ ..... 4-18

## V

VT100 ..... 5-6  
 VT280 シリーズ ..... 4-55, 5-6  
 VT282 ..... 1-4  
 VT284 ..... 1-4  
 VT286 ..... 1-4  
 VT382 ..... 1-4, 5-6

## ア

アプリケーション・キーパッド  
 キー ..... 4-19  
 定義 ..... 4-19

## エ

エグゼクティブ・モード ..... 4-1

## オ

オペレータ・コンソール ..... 6-19  
 オンデマンド・ローディング ..... 1-2, 1-4, 2-3,  
 5-5, 5-7  
 ソフトウェア ..... 2-3  
 流れ ..... 2-4, 2-5  
 ハードウェア ..... 2-4

## カ

仮想ターミナル ..... 5-5  
 カーソル・モード ..... 4-19  
 環境 ..... 1-4  
 漢字ターミナル ..... 1-4, 2-4, 2-5  
 サポート ..... 2-1  
 属性の設定 ..... 1-1  
 漢字プリンタ ..... 1-4  
 漢字プリント・シンビオント ..... 1-1, 1-4, 3-1  
 概要 ..... 3-1  
 サポートする漢字プリンタ ..... 3-2  
 種類 ..... 3-2  
 処理 ..... 3-1  
 注意および制限事項 ..... 3-3  
 カントリ・インフォメーション・ファイル . . . 4-1,  
 4-2  
 関連資料 ..... vii



## キ

キャラクタ・セット・インフォメーション・ファイル ..... 4-1, 4-2

## ク

区番号 ..... 4-46

## ケ

罫線コード ..... 2-2, 3-1, 5-8

## シ

システム・キャラクタ  
インデックス・ファイル ..... 4-1, 4-3  
マスタ・インデックス・ファイル ..... 4-1  
システム・ディレクトリ ..... 4-2, 4-3  
システム・フォント  
インデックス・ファイル ..... 1-3  
データベース ..... ix, 1-3, 3-3, 4-3  
データベース・ファイル ..... 4-1  
マスタ・インデックス・ファイル ..... 1-3  
システム・フォント・データベース  
管理 ..... 1-2  
重大度レベル ..... 6-1

## ソ

象限 ..... 4-47  
ソフトウェア・オンデマンド・ローディング  
グ ..... 2-3

## タ

タイプフェイス ..... 4-20  
ターミナル属性 ..... 5-9

## テ

データベース  
複数 ..... 4-55

## ト

動的再定義可能文字セット ..... 1-4

## ニ

日本語 DECwindows ..... 4-1, 4-16  
日本語ターミナル・エミュレータ ..... 4-1, 4-16  
日本語ターミナル・ドライバ . . . 1-1, 2-1, 2-4, 2-5  
切り換え ..... 2-2  
処理 ..... 2-1

## ハ

ハードウェア ..... 1-4  
ハードウェア・オンデマンド・ローディング  
グ ..... 2-4

## ヒ

ビットマップ形式 ..... 4-8, 4-36  
表記法 ..... viii  
標準ターミナル・ドライバ  
切り換え ..... 2-2

## フ

ファンクション・キー ..... 4-19  
ファンクション・キーパッド・キー ..... 4-20  
フォーリン・コマンド ..... 5-1  
フォント  
RAM ..... ix, 1-2, 3-3, 4-25, 4-28, 4-48, 5-8  
ROM ..... ix, 1-2, 2-3, 3-1, 4-55, 5-7  
エディタ ..... 1-4  
サイズ ..... 4-3, 4-10, 4-21  
システム ..... 4-1  
データベース ..... 1-3, 2-4, 2-5  
ファイル ..... ix, 4-8  
編集 ..... 4-19  
フォント・エディタ ..... 4-16, 4-17  
フォント管理ユーティリティ  
概要 ..... 1-1  
機能 ..... 1-1  
メッセージ ..... 6-1  
フォント・システム ..... 1-1  
概略図 ..... 4-1  
フォント・ハンドラ ..... 1-1, 1-2, 2-6  
メッセージ ..... 6-19  
フォントハンドラ ..... 2-4, 2-5  
フォント編集  
スクリーン ..... 4-18  
プリローディング ..... 1-2, 1-4, 5-5  
プリロード・ファイル ..... ix, 1-3, 4-1, 4-3, 4-8  
プリンタ・ハードウェア・タイプ  
論理名 ..... 3-1  
プリント・キュー  
設定方法 ..... 3-3

## ヘ

ペースト・モード ..... 4-19  
編集キーパッド・キー ..... 4-20

## ホ

---

|           |      |
|-----------|------|
| 補助プロセス    | 1-3  |
| ポディーフフェイス | 4-20 |

## メ

---

|              |      |
|--------------|------|
| メイン・キーパッド・キー | 4-21 |
| キー定義         | 4-21 |
| メッセージ        |      |
| 形式           | 6-1  |
| 識別コード        | 6-1  |
| 重大度レベル       | 6-1  |
| 追加メッセージ      | 6-2  |
| 表示           | 6-1  |

## モ

---

|            |                  |
|------------|------------------|
| 文字コード・テーブル | 4-48, 4-49, 4-50 |
| 文字単位編集機能   | 5-9              |
| モデム        | 6-3              |

## ユ

---

|          |              |
|----------|--------------|
| ユーザ定義    |              |
| 文字       | ix, 1-4, 4-3 |
| ユーザ定義文字  |              |
| 作成       | 1-2          |
| ユーザ・プロセス | 2-4, 2-5     |

## ヨ

---

|    |    |
|----|----|
| 用語 | ix |
|----|----|

## ラ

---

|         |      |
|---------|------|
| ラップ・モード | 4-20 |
|---------|------|

## リ

---

|       |     |
|-------|-----|
| リモート  |     |
| ターミナル | 5-8 |
| ログイン  | 5-5 |

## レ

---

|         |      |
|---------|------|
| レターフェイス | 4-20 |
|---------|------|



日本語 OpenVMS  
フォント管理ユーティリティ 利用者の手引き

---

2009年11月 発行

日本ヒューレット・パカード株式会社

〒102-0076 東京都千代田区五番町7番地

電話 (03)3512-5700 (大代表)

---

AA-PU8SG-TE